

令和 2 年第 8 回 昭島市教育委員会定例会議事録

日時：令和 2 年 8 月 6 日

午後 1 時 3 0 分～午後 5 時 4 0 分

場所：市役所 市民ホール

昭島市教育委員会

○教育長（山下秀男） 皆様、こんにちは。昭島市教育委員会教育長の山下でございます。
定刻となりましたので、ただいまから令和2年昭島市教育委員会第8回定例会を開会いたします。

本日は、傍聴の方々もたくさんお見えでございますので、感染症対策を意識していただきながら、少し時間も長くなると思いますけれどもよろしくお願いしたいと存じます。

なお、本日の日程はあらかじめお手元に配布のとおりであります。以後、着座にて進めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは早速、会議に入ります。初めに日程2、前回会議録署名承認につきましては、既に調整を終え、署名もいただいておりますので御了承願います。

次に、日程3教育委員会会議規則第16条の規定に基づく本日の会議録署名委員につきましては2番、紅林委員、3番、石川委員でございます。よろしくお願いをいたします。

次に、日程4、教育長の報告に移ります。

私からでございます。市立小中学校は、新型コロナウイルス感染症対策によりまして、3月2日から5月末日まで、実に3カ月に及ぶ臨時休校の期間を経て、6月1日から学校を再開し、7月31日までの1学期、いわゆる3密の回避など感染症対策に各学校さまざまな工夫を凝らしながら教育活動に取り組み、無事に1学期を終えることができました。これまでの間、児童生徒、そして御家庭、また教職員の皆さんの誠心誠意の取組に改めて感謝を申し上げる次第でございます。

そして現在、8月1日から23日までの夏休みに入っております。今年は梅雨が長引きまして、ちょうど梅雨明けのタイミングで夏休みがやって来たという、これも印象的でありました。明日はもう二十四節気という立秋ということですが、これからも連日暑い日が続くようであります。子どもたち、御家庭、教職員の皆さん、そしてもちろん我々もですが、夏休み期間中も感染症対策を怠ることなく、これからの期間を安全、無事に過ごして、コロナ禍のこれまでの疲れをできるだけ回復した中で、元気に始業式を迎えられるよう、引き続き学校、家庭、地域におけるさまざまな安全配慮の連携も含めまして、改めてお願いする次第であります。そして8月24日、2学期の始業式には、皆元気に登校してきてほしいと思っております。

本年度におきましては既に報告をさせていただきましたとおり、大きな学校行事であります小学校の音楽鑑賞教室や音楽会、中学校の合唱コンクールや特別支援学級、合同学習発表会など、非常に残念でありましたが、多くの行事の中止を余儀なくされました。運動会、そして体育大会につきましては、形を変えざるを得ませんが、どのように実施ができるのか現在検討を深めているところであります。

そうした中で、先般、教育委員の皆様にも速報としてお知らせいたしましたとおり、2学期に予定をしておりました小学校5年生、6年生の移動教室、中学校3年生の修学旅行、特別支援学級の宿泊学習、3学期に予定をしておりました中学校1年生、1校は2年生も予定をしておりましたスキー教室は、新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、本年度は中止といたしました。したがって非常に残念ではありましたが、今の状況の中での実施は極めて困難と判断せざるを得ず、

本年度は小中学校におけるすべての宿泊行事を中止といたすところでございます。

しかしながら、3学期の終わりごろ、状況が許せばですが、これらの宿泊行事に変わる子どもたちに何かよい思い出となる行事ができないか、各学校が主体となって教育課程に位置づけての実施を検討することといたしております。

これを何とか実施できればと考えておりますが、そんな中で一つ、中学校における部活動の感染症対策など一定の制約を受ける中で可能な部活動から再開をしておりますが、東京都中学校体育連盟より、中止となった夏季の東京都中学校総合体育大会の代替として、感染症対策に万全を期した上で、各支部による3年生中心の代替大会開催の呼びかけがございまして、昭島市の支部においても軟式野球、サッカー、硬式テニス、ソフトテニスなど、8種目の記念大会が7月下旬から8月の初旬にかけて実施をされたところでございます。この大会に出場した生徒たちは喜んでおり、また楽しんでいただけたとの報告を受けております。ささやかではありますが、3年生の中学校の思い出としての1ページにしてほしいと思っております。

なお、夏季休業期間中の学校閉庁日につきましては、8月11日から13日までの3日間となっておりますので御承知置きますようよろしくお願いいたします。

日程4の教育長の報告については以上となります。

なお、教育委員会の講演等名義使用承認につきましては、資料のとおり2件となっております。

ただいまの教育長の報告に関して御意見がございましたらお願いをいたします。いかがですか。よろしいですか。それでは以上で、日程4を終わります。

次に日程5、議事に入りたいと存じますが、本日、議案としております議案第19号「令和3年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択について」これにつきまして審議に時間を要しますことから、議事進行を効率よく行うため、議案第20号、21号及び報告事項を先行して行ったあと議案第19号の審議を行いたいと存じますが、よろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） よろしいですか。それでは本日は議事等の順序を変更して行いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります。初めに、議案第20号「昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について」及び議案第21号「昭島市学校給食会計監査役員の委嘱について」を議題といたします。事務局より一括して説明をお願いします。

○学校給食課長（原田和子） 議案第20号「昭島市学校給食運営審議会委員の委嘱について」提案理由並びにその内容の御説明を申し上げます。

現在委嘱しております昭島市学校給食運営審議会委員につきましては、7月31日をもって任期が満了いたしました。このため、本年8月1日から令和4年7月31日までの期間の学校給食運営審議会委員につきまして、議案書記載のとおり委嘱いたしたく本議案を提案するものでございます。

審議会委員につきましては、昭島市学校給食運営審議会条例第3条第2項の規

定に基づきまして、市立小学校長が3人以内、市立中学校長が1人、PTA 連合組織の代表者が1人、学校医が2人以内、所轄保健所の職員が1人、学識経験者が4人以内、公募による市民が3人以内の合計15人以内で組織するものでございます。

今回の候補者は、保健所の人事異動により選出いただきました垣ひろかず氏、公募による市民の山口節子氏、森悦子氏の3人の方が新任で、そのほかの8人の方が再任で、合計で11人でございます。

なお、新型コロナウイルス感染防止対策で、各小中学校のPTA 総会の開催が7月下旬になりました関係で、PTA 連合組織の代表者1人、学識経験者の小中学校PTA 会長3人の計4人については、まだ推薦をいただいておりますので、改めて提案させていただきたいと存じます。

続きまして、議案第21号「昭島市学校給食費会計監査役員の委嘱について」提案理由並びにその内容の御説明を申し上げます。

現在、委嘱しております昭島市学校給食費会計監査役員につきましては、7月31日をもって任期が満了いたしました。このため、本年8月1日から令和4年7月31日までの期間の昭島市学校給食費会計監査役員につきましては、議案書記載のとおり委嘱いたしたく本議案を提案するものでございます。

監査役員につきましては、昭島市学校給食費会計規則第17条第1項の規定に基づきまして小・中学校長が1人、PTA 連合組織の代表者が1人、学識経験者が1人の3人で組織するものでございます。候補者2人の方につきましては、再任でございます。PTA 連合組織代表者につきましては、先ほどと同様の理由により推薦をいただいておりますので、改めて提案させていただきます。

以上、簡略な説明で恐縮に存じますが、よろしく御審議賜りますようお願い申し上げます。

○教育長（山下秀男） 議案第20号、21号の説明が終わりました。本2件に対する質疑、御意見等がございましたらお願いをいたします。

いかがですか。よろしいですか。

特にございませんようですので、お諮りしたいと思います。本件は原案のとおり決することに御異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） 異議なしと認め、議案第20号21号は原案のとおり決しました。

本日は、協議事項はございません。

次に、報告事項1「市立やまのかみ会館空調設備改修工事に伴う休館について」事務局より報告をお願いいたします。

○社会教育課長（伊藤雅彦） 報告事項1「市立やまのかみ会館の空調設備改修工事に伴う休館について」資料に沿って御説明申し上げます。

平成11年に開設しました市立やまのかみ会館でございますが、開設後20数年を経過し、空調設備機器が老朽化し、頻繁に不具合が生じていることから工事を実施するものでございます。

工事は令和2年10月5日から令和3年2月28日までを予定しており、この間は全館休館となります。このため会館に併設し、休室となります市民図書館やまのかみ分室に関しましては、その間の代替措置といたしまして、市立拝島会館駐車場に移動図書館車を配し、対応してまいります。

市民への周知は、9月1日号「広報あきしま」と市ホームページ及び関連施設での掲示等で行ってまいります。

利用者には大変、御不便と御迷惑をおかけしますが安全な工事と快適で利便性の高い施設を目指してまいりますのでよろしくお願いいたします。

以上、御報告申し上げます。

○教育長（山下秀男） 報告事項1の説明が終わりました。本件に対する質疑、御意見等がございましたらお願いをいたします。

いかがですか、よろしいですか。

それでは、以上で報告事項1を終わります。

報告事項2「昭島市教育委員会事務局職員の人事異動について」から報告事項4の「令和2年度昭島市立学校学校評議員の委嘱について」までの3件につきましては、資料配付のみとしておりますが、御意見、御質問等がございましたら発言をお願いしたいと思います。

いかがですか、よろしいですか。

特にないようですので、以上で報告事項を終わります。

ここで暫時休憩といたします。再開は5分後を目安に13時50分からということとよろしいですかね。それでは再開は13時50分からといたします。よろしくお願いいたします。

（ 暫時休憩 ）

（ 再 開 ）

○教育長（山下秀男） それでは会議を再開いたします。

議案第19号「令和3年度昭島市立学校で使用する教科用図書採択について」を議題といたします。

事務局より提案の説明を御願いたします。

○統括指導主事（佐々木光子） 議案第19号「令和3年度昭島市立学校で使用する教科用図書の採択」につきましては、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」に基づき、来年度使用する教科用図書について採択をお願いするものです。

初めに、中学校の通常の学級で使用する教科用図書でございますが、新学習指導要領全面実施に際しての教科用図書の採択となりますので、「昭島市立小学校及び中学校使用教科用図書採択要綱」に基づき校長、副校長、学識経験者、保護者代表からなる「昭島市立中学校教科用図書選定資料作成委員会」を設置し、調査研究部会において実施した調査研究を基に、参考資料1としてお配りしている「令和3年度使用昭島市立中学校教科用図書選定資料作成委員会調査結果報告書」を作成し、提出していただきました。

また、市役所と図書館において教科用図書の展示を行い、市民の皆様から合わ

せて 41 通の意見をいただきました。意見の内容につきましては、委員の皆様には事前に配布をさせていただいております。これらの資料などを参考にさせていただき採択をお願いいたします。

なお、本日は、中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長及び調査研究部長である校長、副校長の皆様が出席しておりますので報告書の概要について、御説明申し上げます。

次に、特別支援学級で使用する教科用図書の採択について御説明いたします。学校教育法附則第 9 条の規定による教科用図書は毎年採択を行うことができるため、「特別支援学級使用教科用図書の採択に関する要綱」に基づき採択を実施するものです。固定制の特別支援学級設置校である共成小学校、つつじが丘小学校、田中小学校、富士見丘小学校、昭和中学校、多摩辺中学校、清泉中学校に設置しました特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会において調査研究を行い、提出された報告書を参考に採択をお願いいたします。報告書は参考資料 2 となります。

なお、固定制の自閉症・情緒障害特別支援学級である富士見丘小学校と清泉中学校につきましては、通常の学級に準ずる教育課程を編成しているため、教科用図書につきましては、すべて通常の学級と同一の教科用図書を使用するとの調査報告をいただいております。

本日は、知的障害特別支援学級設置校の特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会の委員長である校長、副校長の皆様が出席しておりますので報告書について、御説明申し上げます。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） 説明が終わりました。ただいま説明にありましたように、教科用図書選定資料作成委員会委員長及び調査研究部長、知的障害・特別支援学級設置校の校長、副校長の皆様に出席していただいておりますので、初めに、出席していただいている校長、副校長の皆様にご調査研究報告書の内容について報告を受けたあと、一括して質疑を行いたいと思います。

それでは、中学校教科用図書選定資料作成委員の校長、副校長の皆様を事務局より紹介いたします。

○統括指導主事（佐々木光子） それでは、本日出席の校長、副校長の皆様を御紹介いたします。

中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長の瑞雲中学校、山下校長です。続きまして、各調査研究部会の部長の御紹介をします。

国語・書写調査研究部長の昭和中学校、佐藤副校長です。

社会・地図調査研究部長の清泉中学校、中島校長です。

数学調査研究部長の清泉中学校、中川副校長です。

理科調査研究部長の多摩辺中学校、相部校長です。

音楽・器楽調査研究部長の拝島中学校、齋藤校長です。

美術調査研究部長の福島中学校、中屋副校長です。

保健体育調査研究部長の拝島中学校、渡部副校長です。

技術・家庭調査研究部長の多摩辺中学校、堀田副校長です。
英語調査研究部長の瑞雲中学校、阿部副校長です。
道徳調査研究部長の福島中学校、長野校長です。

○教育長（山下秀男） 御担当くださいました校長、副校長の皆様には、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

それでは早速ですが、報告書の説明と質疑に入ります。中学校教科用図書選定資料作成委員会委員長の経過について、委員長である瑞雲中学校山下校長より報告を御願いたします。

○教科用図書選定資料作成委員会委員長（山下久也） これまでの教科用図書選定資料作成委員会の経過と全体を通しての説明をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

5月12日に、第1回教科用図書選定資料作成委員会を開催し、採択事務や調査研究について確認をいたしました。5月18日の調査研究部会説明会の後、各中学校に教科用図書の巡回展示をするとともに、各教科の調査研究部会において教科用図書の調査研究を行い、報告書の作成を行いました。

そして、7月7日に第2回、7月14日に第3回教科用図書選定資料作成委員会を行い、調査研究部会から調査研究の結果報告がございました。

調査研究項目は、「内容」と「構成上の工夫」に分けて、A3用紙1枚にまとめております。なお、市民からの意見につきましては、事務局から報告がございました。調査研究部会からの報告及び市民からの意見を参考に報告書について審議を行い、教科用図書選定資料作成委員会としての報告書を作成いたしました。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

それでは各教科の調査についての報告をお願いいたします。

なお、質疑応答につきましては最後に一括して行うこととしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。それでは初めに国語・書写の調査研究部長の佐藤副校長よろしくお願いいたします。

○昭和中学校副校長（佐藤信雄） では、国語と書写について順に述べてまいります。国語に関しては4社ございましたが、いずれも新しい学習指導要領に則り、それぞれの領域の力を伸ばそうという意図があり、いろいろな工夫を凝らしていました。そういった中でも、例えば生徒の発達段階に対する配慮では、小中学校の接続を意識した三省堂、内容の押さえ方の配慮では多種多様な工夫をした光村、それから古典教材の配列では無理なく学習に入れるような配慮をしていた光村、教科の特質性の配慮では図版や資料の読解力を養うという工夫があった東京書籍、それから本市の地域性への関連で申し上げますと、本市の生徒により合った、習熟度

に合った読みやすい教材、親しみやすい教材を選んでいくということと、本市でも重視しております国際的視野を育成しようという意図があった光村、内容の組織配列では、光村と教育出版が現代の社会に生きる者として、こういった課題があるかということよく取り上げていたということがございました。また、4社ともオンラインの学習に対する配慮が工夫されておりまして、在宅での学習にも利便性が高いものになっております。

続きまして、書写ですけれども、これも4社、それぞれ新しい学習指導要領に則り、それぞれ力を伸ばそうと工夫が凝らしてあります。中で、例えば東京書籍では書写学習を日常の生活、また、ほかの学習でも発展させられるという工夫がされておりまして。東京書籍は筆圧の強弱を3段階の濃淡で示して非常に書写が苦手でもわかりやすい、また、手紙の書き方なども工夫されておりまして。光村は硬筆用の別冊が便利であり1年から書写の基本が身につけると意識が明確でした。ということで、それぞれ工夫が凝らされていたと分析しました。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に、社会（地理）の説明をお願いいたします。

○清泉中学校長（中島理智） それでは私、社会科の地理的分野からの御報告をさせていただきます。

東京書籍です。内容に関しましては語句に関して小学校の社会科で学習した内容が掲載され、発達段階への配慮があり、アイコンを設けて学習の流れがイメージできるよう配慮されておりまして。構成に関してです。配列、分量とも適切であります。また、各章ごとの振り返りにより、内容がつかみやすい構成となっております。

教育出版です。内容に関しましては、発達段階に配慮され、内容も押さえられております。「読み解こう」での問いにより、要点や考え方への配慮があります。構成については配列、分量とも適切でございます。学習ごとのワードチェックなどにより基礎的事項の取扱に対する配慮がなされております。

帝国書院です。内容に関しましては、発達段階に配慮され、内容も十分に押さえられております。文字の大きさや色使いが工夫されていたり、単元のまとめのページが見開きになっており、要点がつかみやすいよう配慮がなされております。構成に関しましては配列分量とも適切です。導入のページで、写真、資料が豊富に示され、掲載の写真が鮮明で学習イメージをつかみやすいとの意見がございました。各章ごとの振り返りの学習に対する配慮も十分です。

日本文教出版です。内容に関しましては、重要語句すべてにふりがなをつけるなど発達段階に配慮された内容となっております。単元の初めに、グラフや写真の掲載も豊富であり、興味を引く内容となっております。構成については、配列、分量とも適切です。構成上、学習課題がページ毎に提起され、学習活動への配慮がなされております。

以上、地理的分野の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。次に社会（歴史）の説明をお願いいたします。

○清泉中学校校長（中島理智） それでは社会科歴史的分野について御報告をさせていただきます。

東京書籍です。内容に関して発達段階に配慮され、基礎から発展まで内容が押さえられております。社会科の見方、考え方の視点からコラムが充実しているとの意見もございました。構成に関しましては、地理や公民との関連が見え、明確に示されており、内容の組織配列に配慮がなされております。全体の構成が見渡せるよう各ページの年表に学習内容の該当部分が色塗りされているなど、構成の配慮も十分です。

教育出版です。内容に関しましては、発達段階に配慮した基本的な内容が押さえられております。本文の情報量は豊富であります。キーワードを軸に要点を押さえやすい工夫がなされております。構成に関しては、配列、分量とも適切で、写真や資料がバランスよく掲載されております。

続いて、帝国書院です。内容に関しましては、発達段階に配慮がなされ、基礎から発展までバランスよく内容が押さえられております。資料の大きさや本文の文字の大きさが、バランスがよく見やすいとの意見がございました。構成に関してです。資料が豊富で興味や関心を高めることへの配慮がなされています。まとめ方や発表の仕方についての解説説明があり、学習活動への配慮がなされております。

続いて山川出版社でございます。ページごとの情報量は豊富であります。用語解説が各ページごとにあり、内容を押さえやすくなっております。表記は、である調の表記に特徴がございます。構成に関してです。配列、分量とも適切です。小学校と中学校のつながりはもとより、高等学校へのつながりの意味で発展的な内容の取扱いが特徴となっております。

日本文教出版です。内容に関しては、基礎から発展までの内容が十分押さえられております。文字や資料の大きさ、配列が見やすく工夫されております。重要語句の扱いは、太線に加え、解説が加えられ、内容を押さえる配慮がされております。構成に関しましては、配列、分量とも適切であり、写真や資料がバランスよく掲載されております。

育鵬社です。内容に関しましては、本文の分量が多く情報量も豊富です。扱われている人物も多く、説明の詳細が掲載されております。構成に関しましては、配列、分量とも適切であり発展的なコラムが充実しております。資料の解説が丁寧になされ、基礎的事項取扱への配慮がなされております。

学び舎です。内容に関しましては、各ページのタイトルや見出しが特徴的です。また、各ページの学習課題の説明方法に特色がございます。構成に関しては配列、分量とも適切で他社に比べ、教科書サイズが大きく写真や資料も見やすく興味を引く工夫がなされております。

以上で歴史的分野の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。引き続き、社会（公民）の説明をお願い

いたします。

○清泉中学校校長（中島理智）　続きまして、社会科公民的分野について報告をいたします。

東京書籍です。内容については発達段階に配慮され内容も十分押さえられています。各ページに見方、考え方、確認、深めようなどの課題があり、要点の把握や内容の深まりへの配慮がなされています。重要語句の解説も適切です。構成では、生徒の話し合い活動や議論など、主体的学習活動を促す配慮が十分なされています。学習内容に関する写真や資料のページも興味関心を引く工夫がされています。

教育出版です。内容は発達段階への配慮があり、内容も十分押さえられています。確認や表現などにより、要点をつかみやすい配慮がされています。構成では、分量、配列とも適切であり、グループでの話し合い活動を促す課題設定となっております。

帝国書院です。内容に関しては、発達段階への配慮、内容の押さえ方への配慮ともに十分されています。構成面では、分量、配列も適切であり、アクティブ公民などにより課題解決に向けた話し合い活動を促す配慮がなされています。

日本文教出版です。内容に関しては、発達段階への配慮、内容の押さえ方への配慮ともに十分されています。各章の初めにイラストなどを活用し、生徒の興味を引く工夫がなされておりました。構成面では分量、配列とも適切であり、「チャレンジ公民」などにより、思考力、判断力を問う発展的な課題設定も配慮されておりました。

自由社です。内容に関しましては、重要語句や要点を押さえる配慮がなされており、内容の押さえ方も適切です。文章の説明が多く、情報量も充実しておりますが、資料がやや少ない印象もありました。構成に関しては、分量、配列も適切であり、話し合い活動がしやすい課題設定にも工夫が見られます。

育鵬社です。内容の押さえ方、発達段階に対する配慮がなされています。イラストの活用により興味を引く工夫がなされておりました。構成に関しては、写真やグラフなど資料が豊富に掲載されており基本的事項の取扱いについても配慮がなされています。

以上、公民的分野の説明を終わります。

○教育長（山下秀男）　続けて、社会（地図）の説明をお願いいたします。

○清泉中学校校長（中島理智）　それでは、地図に関しての調査報告をさせていただきます。

東京書籍です。内容に対する配慮がなされ、鮮明で見やすい内容となっております。構成に関しましては多くの図版が掲載されており、写真や資料も豊富で基礎的事項や学習活動への配慮がなされています。

帝国書院です。内容に関しては、主題図に加え、鳥瞰図や地形、気候の地図が大きく掲載され、内容の押さえ方への配慮が十分です。構成については、2社の中ではサイズが大きく、地図の見やすさへの配慮がなされ、地図の色合いも鮮明ではっきりしているとの意見がございました。

以上、地図についての報告を終わります。

○教育長（山下秀男）　ありがとうございました。続きまして、数学の説明をお願いいたします。

○清泉中学校副校長（中川義弘）　数学につきまして、教科書会社ごとに7社、報告させていただきます。

初めに、東京書籍についてです。1学年の最初にゼロ章を設け、「正負の数」と分けて、算数から数学への移行の配慮がなされております。巻頭へ、ノートを取り方についても詳しく触れられています。学習の流れや課題の提示、「考え」、「調べる」で問の流れで統一しており、ページの最初に内容のまとめりごとの学習課題が示されています。また、実社会とのつながりや、他教科の活用に通じる内容が充実しています。生徒に深く考えさせ、多様な考え方を引き出そうとする場面提示や発問がある内容になっています。

続いて、大日本図書についてです。学習のめあてが細かく示されており、小ステップで学習に取り組めます。比較的平易な問題が多く取り上げられ、数学が苦手な生徒にも取り組みやすい内容です。また、問題解決型の学習に配慮した内容が多く取り上げられています。

続いて、学校図書についてです。学習の目標が示されております。キャリア教育やSDGs、「さらなる数学へ」など、数学と社会へのつながりを多く取り上げ、生徒が興味ある内容が取り上げられております。やや発展的な内容が多めになっています。

教育出版についてです。巻末にある「学びのマップ」で系統的な復習、確認ができます。例題がシンプルで深くない内容です。誤答例を挙げて、基礎基本の習得に力を入れている内容になっています。「数学の広場」では日常生活と数学の関係が興味深く扱われています。

続いて、啓林館についてです。一つひとつの例題にタイトルがついていて、学習内容がわかりやすいです。説明が丁寧ですが、やや高度な内容でありました。「説明しよう」「話し合おう」など対話的な学習を通して理解を深める内容になっていました。

続いて数研についてです。学習の目標が示されています。巻末に専用の自己評価シートや専用のワークシートがあり、活用できます。対話形式の記述が多く、問題解決のプロセスが示されています。

続いて、日本文教出版についてです。めあてが示されています。間違いやすい問題があり、生徒のつまずきを防ぐ工夫があります。標準的な内容で、例題がシンプルです。キャリア教育をテーマにしたコラムや、数学的な活動の楽しさを実感できる記載があります。巻末に対話シートがあり、考える力や説明する力を高める内容になっています。

数学の部は以上でございます。

○教育長（山下秀男）　はい、ありがとうございました。次に、理科の説明をお願いいたします。

○多摩辺中学校長（相部公太郎） 理科部会における調査結果の報告をいたします。

理科部会では、学習に効果的であるかという視点で5社の調査をいたしました。具体的には、内容及び構成上の工夫に関して次の4点の視点を大切に検討いたしました。第1に、理科に親しみが持ちやすいか。第2に、基礎的、基本的な学力が身につけやすいか。第3に、学びがつながり、広がりやすいか。第4に探究する力がつけやすいかという視点です。

そして、生徒が教材の図書を使用した場合を想定し調査研究を進めました。第1に、生徒が探求型の学習を行い主体的、対話的で深い学びの実現に向けた学習を実践する姿を想定しました。第2に、授業において学びやすく、わかりやすく、そして実生活とのつながりに気づかせ、教員が授業を展開します。その時、生徒が目目を輝かせて学び、わかった、できた、理科って楽しい、面白いという実感が描けるかどうか、この姿を想定しました。

詳しくは報告書を御覧ください。

以上で報告を終わります。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

次に、音楽の説明をお願いします。

○拝島中学校長（齋藤 真） 音楽部会の報告をいたします。

音楽（器楽）では、2社の教科書が示されておりました。どちらの会社におきましても新学習指導要領の内容に則り、適正に内容、構成がされております。めあてやアドバイスが適切に示され、学習に取り組みやすい構成になっております。

音楽につきましては、教育出版社では楽典が3年間統一されているという特徴がありました。3年間指導しやすく、指導できるように楽典が統一されておりました。

教育芸術社では、イラストや写真が鮮明で、ユニバーサルデザインへの配慮が感じられました。

器楽におきましては、教育芸術社では楽器を演奏する際の指使いの写真がわかりやすく掲載されておりました。

以上です。

○教育長（山下秀男） 器楽もあわせて御説明ありがとうございました。

次に、美術の説明をお願いいたします。

○福島中学校副校長（中屋珠美） 美術では、3社とも新学習指導要領に基づき、さまざまな工夫が感じられて、甲乙つけがたいところがありました。その中で特に技術科として大切にしたのは、生徒のさまざまな表現欲求に答えられること、それから生徒の美的好奇心をくすぐり、豊かな活動とそれを表現するための技術的サポートが取り上げられていることが大切だというふうに考えました。特に中学生の発達段階を考えると、授業では作品生活を通して自分と対峙し、自分らしさについて考えたり気づいたり、それから自分を知るとも大切な時期です。そういう

ことを考えてきた時に、全国の同じ中学生の作品が載っていたり、どんな思いでその作品を表現したかという解説が載っていることは大変重要であると考えました。どの教科書についてもそのようなものが載っているんですけども、その作品を見ながら自分を肯定したり客観的に判断したり、それから話し合い活動で相互に理解し合うことができるのではないかと考えました。

それぞれ3つの開隆堂、光村図書、日本文教出版について特徴がありました。開隆堂については、今まで豊かな造形経験を重ねてきているということを中心に前提としてあって、特に発想の部分を刺激するような作品が多く取り扱われているように思います。昭島市の地域性に適しているかというところの検討をかなりしました。開隆堂については、身近な地域への理解、例えば文化であるとか伝承されているお祭りであるとか、先人たちの思いなどをかなり重視した形で題材が取り上げられている部分が目立ちました。

それから光村ですけども、光村は生徒視点、生徒の視点をすごく大切にしていってどんなふうに感じるかとか、どんなふうに見せるかとか、どんなふうはこの作品は作者がつくったのかというのをかなり細かくきちんと載せている感じがしました。3社の中では一番生徒作品を多く扱っておりまして、全国の同じ中学生の作品表現について触れることができました。

それから、日本文教出版は、作品に対する解説がとて多くあって、子ども自身がわかりやすい教科書になっています。反面、解説が多すぎるというような所も感じられますが、美術というのは、なかなか感覚的なところで捉える意味ではこの文章表現での解説も非常に有効であると考えました。昭島の、先ほど地域に合っているかというところで開隆堂のお話をしましたが、光村についても、特に生徒作品のところではいろんな地域との関わりについて、西洋とか東洋についても書かれていたので、この辺もすごく子どもたちが身近に感じられるのではないかと思います。日本文教については、解説が若干多いかなと。昭島の子どもはすごく発想力が豊かだということを聞いておりますので、その部分ではわかりにくい、美術が苦手な子については、すごくいいテキストではあるけれども、発想の部分の所ではもしかしたら制限をしてしまうことがあるかもしれません。なんとも言えないところです。

最後に、学習活動に対する配慮ですけども、休校があったりしても、家でも作品製作ができるように、どこの教科書でもQRコンテンツを取り上げています。開隆堂と日本文教出版にてういては、技術面のフォローの動画が非常に多く載っていますが、光村については全国の中学生の生徒作品が視聴できるということが大きな特徴になっておりました。

以上、美術の報告を終わりにいたします。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

次に、保健体育の説明をお願いします。

○拝島中学校副校長（渡部 尚） 保健体育では、1時間ごとの授業をイメージしながら検討していきました。より伝えやすいものは何か。より指導しやすいものは何かという視点を大切にしていました。保健体育では、東京書籍、大日本図書、学研、

大修館の4社について調査をいたしました。4社とも教科書のサイズがAB版という大きなワイド版になっていて、正方形に近いサイズで、これにより1ページあたりの情報量が多く記載できていて、開いたときに図や表が見やすいメリットを感じました。また、表紙も各社とも工夫が凝らされていて、特に、人やスポーツの多様性を意識してつくられているものになっていました。

内容につきましては、内容の1、生徒の発達段階への配慮についてですが、すべての教科書がユニバーサルデザインに配慮との記載があり、非常に見やすく作成されていました。

2の内容の押さえ方に対する配慮の工夫ですが、どの出版社も表記の仕方は異なるものの、導入、展開、まとめの流れで構成されていて、非常に進めやすい内容になっておりました。章ごとのまとめが若干各社の違いがありまして、学研、東京書籍、大修館が章ごとの最後のまとめが、穴埋め問題形式で作成されていたのに対して、大日本図書が重要語句一覧というまとめ方になっていました。

5の昭島市の地域性に即しているかについては、どの教科書も、巻末資料にネット被害やネット依存、飲酒や喫煙の害などを載せていて、それぞれの内容が非常に適切で、本市の中学生への指導が必要と思われるものが各社とも載せられていました。

次に、構成上の工夫ですが、各単元の学習課題に対して、各社とも生徒たちの身の回りの事柄に関連させた表記となっていて、学習のイメージを持たせやすいと感じました。特に学研では、まとめる、深める、広める、という表記がすべての単元で統一されていて、習得、活用、探究の流れで学べる構成がよりわかりやすいと意見が出されていました。

最後、教科の特質に即した基礎的事項の取扱いについては、出版社で違いが見られたのがSDGsの記載です。東京書籍と大修館は、非常に詳しく取り上げており、よく理解できる内容でした。学研では触れられてはいるものの、東京書籍や大修館ほどの説明ではなく、大日本図書に関しては記載を見つけることができませんでした。

また、5の学習活動に対する配慮として、東京書籍は、自社の動画コンテンツをQRコードで学習できるように掲載されており、目次に動画のマークで動画のコンテンツの有無が示されておりました。また他社では、関連した公的機関のホームページをURLで紹介されているという形でした。

そして単元におけるほかの教科やほかの単元との関連性についても、どの教科書もリンクは示されていましたが、東京書籍と大日本図書ではリンク先のページもその場に示されていて、非常に親切で丁寧というふうに感じました。

以上で保健体育の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、技術家庭（技術分野）の説明をお願いします。

○多摩辺中学校副校長（堀田典子） それでは技術調査研究部会の報告をさせていただきます。

技術科の教科用図書は、東京書籍、教育図書出版、開隆堂の3社を検討しまし

た。どの教科用図書も改訂のポイントを押さえ、技術の見方、考え方を働かせ、物作りなどの技術に関する実践的、外見的な活動を通して、生徒が意欲関心を持って学べる内容のものでした。また、生活や社会における事象を技術との関わりとの視点で捉え、社会からの要求、安全性、環境負荷、経済性のバランスをとることなどにも着目して、技術の最良化についてももしっかり触れられていました。

では、内容ごとに各社の比較を説明していきます。

まず、1つ目、生徒の発達段階に対する配慮ですが、東京書籍は最初に「最良化の窓」という穴の空いたページがあり、生徒の発達段階や学習内容によって、この窓から見えるものから技術と社会の関わりを考えさせるという工夫がありました。教育図書出版が、内容を深めるための別冊資料があり、補足資料が豊富にありました。開隆堂については発達段階だけではなく生活経験にも十分配慮した内容となっていました。

2つ目の内容の押さえ方に対する配慮については、3社ともキャラクターが登場し、その台詞が技術の見方、考え方を示唆する内容になっています。

各社で異なることとしては、東京書籍は権利や法則、基礎的な技術の仕組みについて、内容を裏付ける図や資料を掲載し、理解を深めるようにしています。教育図書出版は実習題材に取組みながら、技術の見方考え方を育成する構成、開隆堂は基礎的、基本的な知識及び技術の習得を通して理解を深める構成となっていました。

3番目、教科の特質に即した要点や考え方については、最初に申し上げたとおり、各社とも生活や社会における事象を技術との関わりとの視点で抱え、社会からの要求、安全性、環境負荷や経済性のバランスをとること等に着目して触れられていました。

4つ目、表記や表現に対する配慮については、各社ともユニバーサルデザインを意識したものになっていました。特徴的なことを挙げるとしたら、東京書籍はイラストや写真を多く使用し、イメージしやすい工夫があること。教育図書出版は、読みやすい3文節構成になっていること。開隆堂は読みやすさの工夫として、単語は途中で改行しないということが挙げられました。

5つ目、昭島市の地域性に適しているかにつきましては、3社とも実習や問題解決例を豊富に提示し、地域や学校の実態に応じて選択できるものでした。

次に、構成上の工夫について各社の比較をしていきます。

1つ目、内容の組織配列及び発展的な系統に対する内容については、3社とも学習の目標や流れがわかるような配列となっています。東京書籍は各自の工夫を促す配慮があること、新たな疑問や課題についての記入欄があること。教育図書出版は発展的な内容がわかるようにマークをつけていること。開隆堂は政策の目的や流れがわかるように配慮されていることが特徴として挙げられました。

2つ目、各領域の分量に対する配慮は、3社とも偏りがなく適切でした。

3つ目、強化の特質に即した資料教材、補助教材並びに基礎的事項の取扱いに対する配慮については、Dの情報の技術を中心に比較、検討しました。3社とも小学校のプログラミング教育の成果を生かし発展させる視点を持っていました。各社の特徴を挙げるならば、東京書籍では、フローチャートの表現や日常生活と技術のつながりについての表記に工夫があり、さらに小学校でのプログラミング

体験の個人差を予想し、簡単なプログラミング体験が体験できる付録がありました。教育図書出版は、学校教育に合わせてプログラミング言語を選択できること。開隆堂では複数のプログラミング言語を掲載し、高等学校や社会に向けて学びを広げていくということが挙げられました。

4つ目、全体の構成が見通せるような配慮については、3社とも、目次で全体を見渡すことができ、3年間の学習の見通しを立てられるものでした。

5つ目、学習活動に対する配慮については、各社ともQRコード等で参考資料や動画を視聴できる配慮がありました。QRコードの数が一番多いのは開隆堂で、約150個ですが、36個と比較的少ない東京書籍は、男女が協力して話し合い活動や作業をする写真やイラストを用い、男女の平等や協力を重んじる態度を養う配慮がありました。教育出版は、60個のコンテンツがありました。

最後に環境に配慮した部分として製本方法の違いについては、東京書籍は、省資源、リサイクルを考え、針金を使用しない網代綴じになっており、教育図書出版及び開隆堂は、強固な接着剤を使用し長期の使用に耐えられるものになっていました。

以上で技術の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） 続けて技術家庭、家庭分野の説明をお願いいたします。

○多摩辺中学校副校長（堀田典子） 続きまして、家庭科部会の報告をさせていただきます。

技術科と同様に、教科用図書は、東京書籍、教育図書出版、開隆堂の3社です。家庭科では3つの家庭科分野の内容構成があり、A「家族、家庭生活」、B「衣食住の生活」、C「消費生活、環境」となっておりました。各社とも家庭科分野の各内容は、さまざまな問題を、協力、協働、健康、快適、安全、生活文化の伝承、持続可能な社会の構築等の視点から捉え、解決に向け考え、工夫できる内容となっておりました。

内容ごとに各社の比較を説明していきます。

まず1番、生徒の発達段階に対する配慮ですが、3社とも、編や章の導入に、小学校の学びの振り返りがあります。その他の特色は、興味・関心を持ちやすい工夫として、東京書籍と開隆堂は、自立から共生へのストーリーで構成されています。また、教育図書出版では、生活体験の少ない生徒にもイメージしやすい写真や資料が多いことが特色として挙げられます。

次に、内容の押さえ方に対する配慮については、3社とも生活の課題と実践を考えさせ、自立を促す内容となっています。教育図書出版では、新しい内容も活動例や素材で丁寧に示していること。開隆堂では、小さな課題を配置して学習意欲を喚起させる工夫が特徴として挙げられました。

3つ目、教科の特質に即した要点や考え方については、まず、新設された高齢者との関わりについて着目して検討しました。東京書籍は、介助の方法や声のかけ方、関わり方についての記載がありました。教育図書出版では、高齢者体験の資料が示されていました。開隆堂は、東京書籍と同様に、介助の仕方や声のかけ方、関わり方についての記載とともに、QRコードで介助の実演を視聴でき、さら

にアクティブラーニングが展開できる内容となっております。

4つ目、表記や表現に対する配慮については、3社ともユニバーサルデザインをしっかりと意識したものになっていました。イラストや写真を多く使用し、イメージしやすい工夫があることも共通しています。開隆堂は、写真のアングルを生徒の目線で捉えていて、見開きで左側に例の流れで確認できる示し方がほかの2社とは異なりました。

5つ目、昭島市の地域性に適している点につきましては、東京書籍、開隆堂は豊富な実習例、技術レベルや製作時間などについて、地域や学校の実態に応じて選択できる点。教育図書出版では、豊富な資料が盛り込まれているため、資料集購入の負担がないなどの点が挙げられました。

次に、構成上の工夫について各社の比較をしていきます。

1つ目、内容の組織配列及び発展的な系統に対する配慮については、3社とも特に小学校での学習内容と深く関わることを明確に示しています。そして、配列について特色があったのは、東京書籍の、衣食住の生活から始まることでした。3年間の学習が自立から共生へという構成になっています。教育図書出版と開隆堂はABCの配列となっています。特に、教育図書出版は、現代の課題にも対応できる力が育まれるような配慮がありました。

2つ目各領域の分量に対する配慮は、3社とも基礎基本を押さえた学習ができる適切な分量です。

3つ目、強化の特質に即した使用教材、補助教材並びに基礎的事項の取扱いに対する配慮については、3社とも実践的、体験的な活動の充実を図り、学習課題の設定、技能の習得状況に応じた工夫がありました。さらに東京書籍は、災害への備えを手帳にまとめ付録となっていること、開隆堂は、市販しにくい左利きの作業を動画で確認できることが特色として挙げられました。

4つ目、全体の構成が見通せるような配慮については、3社とも表現は異なりますが、基本的には、学習過程は、「導入、展開、まとめ」といった3ステップの構成となっています。

5つ目、学習活動に対する配慮については3社ともQRコード等で参考資料や動画が多く視聴できる配慮がありました。東京書籍は動画等の97本コンテンツがあり、ほかにも思考ツールを多彩に掲載し、主体的、対話的で深い学びの充実を図っています。教育図書出版は55個のコンテンツがあるほか、知識及び技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性など3関係に対応した振り返りになっております。開隆堂は、約230個のコンテンツがあり、ほかにもグループディスカッション、ディベート等、毎時間アクティブに学習できるよう活動内容が充実していました。

以上で家庭科部会の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

次に、外国語（英語）の説明をお願いいたします。

○瑞雲中学校副校長（阿部啓介） では外国語研究部会の報告をいたします。

外国語部会では、6社について報告をいたします。どの出版社も共通して言え

ることは、聞くこと、読むこと、やりとりを通して話すこと、発表して話すこと、書くこと、この5つの領域別に設定された目標が十分達成できるよう配慮されています。また、学年を追って発達段階的に適合した内容が選択されており、中学生が、興味関心を持てるような話題、題材などを取り上げております。また5領域の力をバランスよく伸ばすために、基礎から実践的な活動までできるように構成などが十分配慮されていると考えます。

では、各社のそれぞれの特徴について報告いたします。

まず、東京書籍です。東京書籍は、小学校から中学校への接続を、紙面デザイン説明などの表現を工夫し、例えばユニットゼロを設けて、小学校で学んだ表現、文字、発音などを取り上げて、十分な接続を意識したものになっています。また、コミュニケーションを行う際の目的、場面状況がつかめるように、プレビューというものを設定して気づきを促すとともに、定着が図りやすいよう配慮されています。明確な目標設定が單元ごとに示されており、4技能5領域の活動がバランスよく設定されています。巻末には、振り返りの「Can-Do リスト」というものを設け、自己評価ができるように学習の定着が図られるように配慮がされております。この東京書籍は、ほかの5社と比べて教科書のサイズがやや大きいものになっています。

続いて開隆堂です。開隆堂や、リテリングやインタラクションという機会を多く取り入れて、話すことなどの発展的な学習に適しております。シーンズには、L、S、W、Rの4領域の活動がふんだんに入っております。

続いて、「New Crown」の三省堂ですが、こちらは4技能をバランスよく学ぶことができるよう配慮され、基本文が見やすく、わかりやすいものになっています。外国の話題を多く取り扱っているため、世界的な視野を広げることができます。また、ドリルでは8つのイラストがあるために、口答練習を多く取り入れることができるよう工夫されています。中学校の海外の中学校生活についても取り上げられており、興味深く本市の生徒がオーストラリアの海外交流などに関連させて学習できるようなものにもなっております。また、「read」のところでの文章量が豊富に扱われているところから、読むことに関して楽しみながら読んだり、必要な情報を読み取ったりするよう工夫されております。また、付録に多くの単語が収録されているだけでなく、そのほかにも言語活動のやりとり、表現でロールプレイなどの本編との関連を持った活用性の高いものが工夫されています。

続いて、教育出版です。全体的に高度な発展的な内容になっています。国際理解など、興味を引く題材も多く取り上げられています。また「TIPS」というコーナーでは、4技能を高めるためのコツが示されており、コツを知ることによって英語学習がより効果的なものになるよう工夫されています。

続いて、光村図書です。全体の文章は比較的長いものになっていますが、1文が短くてわかりやすいものになっています。平易な文から、順を追って複雑な文になるよう、学びやすい構成になっています。Be 動詞や一般動詞、助動詞など、一つの文法事項、文構造が比較的わかりやすいような構成になっています。文構造の配列の仕方が1ページにまとめられているので、全体の構成が見通しやすい、比較しやすいものになっています。

続いて、啓林館です。啓林館はシンプルな構成で見やすいものになっていて、

このシンプルな構成が生徒の到達度に応じた発展的な活動に活用できるものになっています。また、各ユニットのパート構成が同じ形式で済むので、学習の流れが見通しやすい、見通せるものに工夫されています。

以上で外国語部会の報告を終わります。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございました。

次に、道德の説明をお願いいたします。

○福島中学校長（長野 基） 道德部会です。道德は、生徒が関心を持って主体的に取り組める教材や見通しを持って考えを深められる配慮がある教科書、また、人としてどう生きるべきか、どうあるべきかなど将来に向けて考えさせる工夫がある教科書、そういうものを求めています。

そこで、そういう観点で見たときに7社ありますけれども、7社とも生徒の発達段階を考慮してよく構成されているかというふうに思いました。

内容面で特徴的なことをお話しします。

まず、生徒が関心を持てるように現代的な課題や、現在活動する、活躍する人物を多く取り上げている出版社が教育出版と学研みらいです。また、長年、道德教材として心を揺さぶる教材を多く取り扱っていたのが廣済堂あかつきでした。そして、要点を押さえるために行っている配慮として特徴的なものが、タイトルの下に、問題提起を投げかけるような記述がある教科書が教育出版と学研みらいです。また日本文教出版は、タイトルの下にその教材の登場人物を絵や写真などで表示することで考えやすくしていました。

構成上の工夫では、どの教科書会社も22の内容項目を、いくつかのテーマに分類して、ユニット化して、表にして、わかりやすくしていました。

日本教科書はすべての教材を22の内容項目順に並べていました。また、目次がとても見やすく、4つの視点がわかるように書かれていますが、目次とは別にこの教科書で学ぶことというものを分類して書かれているのも特徴的でした。

最後に、教科書サイズはAB版とB5サイズの2種類がありますが、ABサイズが東京書籍、学研みらい、廣済堂あかつき。そしてB5サイズは、教育出版、光村図書、日本文教出版、日本教科書の4社です。

以上で報告を終わります。

○教育長（山下秀男） ありがとうございました。

各教科の教科研究部長からの説明が終わりました。ありがとうございました。ただいまの報告に関しまして、委員の皆様からの質問などがありましたらお願いしたいと思います。

○委員（氏井初枝） 対話など主体性を重視した活動が多くの教科で増加しています。大きな教育効果があると思いますけれども、時間がかかって、授業時間内でこなされるかという心配もございます。どのような配慮がされている教科書がよいと思われますか。その点をお尋ねしたいと思います。

○教科用図書選定資料作成委員会委員長（山下久也） 対話など、時間との関係ですけれ

ども、どこでどの程度、そういったものを取り入れるかというところだろうと思いますので、例えば将来、単元の最初に学習課題を示して、最後には学習内容を振り返って話し合いを促すというような記載があるような教科書は、討論などを通じて能動的に学習させる配慮がなされているというふうに考えられます。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにいかがでしょうか。

○委員（白川宗昭） 私は、社会科を中心にちょっと伺いたいんですけども、社会科は地理、歴史、公民、地図と4つの分野に分かれて教科書選定がなされているわけでございます。もともとは社会科として1つのものだろうと思うんですけども、そういう観点から、私は4つの分野、4冊になっている会社を中心に見たんですけども、そうしますと非常にそれぞれ関連があって、皆同じような作り方をしているの、とてもわかりやすいなということを感じました。分野ごとにやるのも一つの考えでしょうけれども、そういう横の、横断的に一つの出版社を見ていくとまた違って面が見られるのではないかなということを感じた次第でございました。その辺のところを社会科、あるいは国語と書写、音楽、器楽、一般と、そういうところも2つに分かれているわけですけども、そういうものを同じで選んだほうがいいのかという感じを持ちました。その辺のところをこの作成委員会ではそのようなことについて御意見があったのかどうか、あればちょっとお答えをお願いしたいと思っております。

○教育長（山下秀男） それでは、いくつかの御質問があったと思うんですけども、社会科のほうからお願いしたいと思います。

○清泉中学校長（中島理智） 今の御質問は、3領域の部分と地図帳について同一の教科書出版社がよろしい、であるのは、ある意味大きな意味があるという御質問だと思うんですけども、部会のほうでは、それぞれの教科書会社が配列、内容、構成に関して学習指導要領に則って十分な工夫配慮がなされているということで話をいたしましたので、3領域プラス地図帳、すべてが同一出版社がよいという話題は上がっておりませんでした。ただ指導者として、あるいは生徒たちの学習の把握状況、到達度ということを考えると、地理的分野については地図帳との出版社のリンクが必要であるというふうな意見は大方を占めていました。以上です。

○教育長（山下秀男） 国語、書写についてよろしいですか。

○昭和中学校副校長（佐藤信雄） 国語（書写）に関しては、同一の出版社のほうの方がよろしいといった話題は上がっておりません。

○教育長（山下秀男） 続けて音楽のほうもよろしくお願いいたします。

○拝島中学校長（齋藤 真） 音楽、器楽部会におきましては同一の教科書のほうが使用

しやすいという意見がございました。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。白川委員、よろしいですか。
ほかによろしいでしょうか。

○委員（紅林由紀子） 数学についてちょっとお伺いしたいんですけれども、1年生の教科書において学び方の順序といたしまして、最初のほうに正負の数という単元と自然数、素数、素因数分解という単元がございまして、これは教科書会社によって順番が逆になっているところがいくつかありまして、それは子どもたちと先生方にとって、どういう順序のほうで昭島は学びやすいのかというのをちょっとお聞きしたいと思います。

○教育長（山下秀男） それでは数学の関係、お願いいたします。

○清泉中学校副校長（中川義弘） 素数に関しましては、小学校の第5学年から中学校の第1学年のほうに、素因数分解につきましては、中学校の3学年の内容から中学校1学年の内容に、今回の学習指導要領の改訂に伴いまして移行してきた内容になってきております。教科書会社によって配置の場所が異なっているということが言えるかと思いますが、それぞれに教科書会社の考えがあるのかなと思いますけれども、正負の数の前に配列している出版社のほうは、小学校と中学校との円滑な接続について考慮しているのかなというふうに考えられます。小学校で学習した約数ですとか公倍数といった考え方を結びつけて、中学校での素因数分解のほうにつながって考えた内容だと思います。逆に正負の数のあとに取り入れている出版社のほうは、数の集合という観点から考えて、素数という見方を指導している考え方なのかなというふうに捉えています。

どちらでも教える側にとっては指導しやすい、しにくいということはないかと思うんですけれども、生徒の側に立ちますと、やはり小学校からの、初めて中学校で数学を学ぶ最初ですので、小学校での既習事項がそのままつながっていく正負の数の前に、素数等を学習するほうが理解のしやすさということでは混乱なく進めるのかなというふうに考えております。

以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 今度は、理科についてお聞きしたいんですけれども、この調査報告書のほうにはサイズが各社、理科は本当にいろいろなわけなんですけど、大日本図書が一番小さいB5サイズになっているわけなんですけれども、コンパクトなサイズで持ち運びが容易で、手に持って読みやすく、理科室の机上などでもスペースを占領せずに済むというふうに、好意的なというか、報告が載っているわけなんですけれども、理科は写真とか図とか、そういうのが、グラフとかそういうものが見やすいというのがすごく大事なことはないかなと私は感じているんですけれども、このような大きさで、十分、学習、子どもたちの関心を引きつけ

て学習できるというふうな具合なのかどうか、その辺、委員会のほうで何かお話が出たかどうか、ちょっとお聞かせいただきたいのが1点と、あと、やはり理科は実験とか自然現象とか、そういう学習の中で、ウェブのデジタルコンテンツを利用するというのがすごく効果的なのではないかと思うんですけども、そういった意味で、理科の教科書の中で、ここのはすごくよかったみたいなそういったものがあったら教えていただきたいというふうに思います。

○多摩辺中学校長（相部公太郎） 御指摘のとおり、大日本図書だけが小さいB5版、標準なんです。それで、ここについてはかなり意見交換をしました。それで、まず写真、図、グラフ等が他社に比べて小さいというところなんです。これについては特に学習を妨げるものではないということ、十分なサイズであるという意見がありました。そしてそれよりも、コンパクトなことにより理科室の机上での扱いとか授業においては使いやすいのではないかという意見が大半でした。

2点目のウェブコンテンツが魅力的であるかどうかというところなんです。これにつきましては、5社とも大変工夫されておりまして、甲乙つけがたい内容でした。学習の理解を深めて議論の定着を図れるよう工夫されていたということです。そういう意見が交換されました。以上です。

○委員（紅林由紀子） わかりました。ありがとうございました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。いかがでしょうか。

○委員（紅林由紀子） すみません、続けてなんですけれども、現在、新型コロナの関係で結構いろいろな学習活動に少し制約がかかっているということがございます。例えば音楽でしたら、合唱というものが多分、今、あまり行われていないのではないかなと思いますけれども、そのような状況下でも、これは音楽についてお聞きしたいんですけれども、そういうような状況が今後もし続とした場合にも、どういった点で教科書に配慮があったら、あるかどうか、どういう配慮がされていたらいいというふうなお話が出たかどうかをお聞きしたいと思います。

○拝島中学校長（齋藤 真） 現在の状況であれば、リズムや創作、それから鑑賞が充実しているほうがいいという意見がありました。

○教育長（山下秀男） よろしいですか。
ほかにございますか。

○委員（氏井初枝） 技術についておたずねいたします。プログラミング教育が本格導入されましてページ数も増えましたし、内容も高度になってきたというふうに感じております。どのような点に配慮された教科書が、教師にとって指導しやすく生徒にとっては学びやすいと、そういう工夫がされているという観点をお教えいただきたいというふうに思います。

○多摩辺中学校副校長（堀田典子） フローチャートの表現とか、日常生活と技術のつながりについて表記してある部分についてが、やはり見方、考え方の観点についてもそのような配慮のある教科書が指導しやすいというふうになっております。また、小学校のプログラミング教育なんかも自分の生活と技術をつなげるといったことも関連づけておりますので、生徒にも自分の生活に密着させて考えることができる内容になっています。

○委員（氏井初枝） ありがとうございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 今度は英語についてお伺いしたいんですけれども、教科として小学校の英語が今年度始まって、そういった形で連携していくのは来年からということになると思うんですけれども、そういう意味で小学校の英語の教科書と同じ出版社のほうで、連続性があって教えやすいということがあるのかどうかということをお伺いしたいのが1点と、すみません、もう1点あるんですけれども、今回文法事項が高校で今まで教えていた仮定法過去と現在完了進行形が、中学校に下りてきたということがございます。ということで少し内容的に増えたというふうにタイトに教えることになってしまうのかなというふうに思うんですけれども、特に日本人にとってちょっと理解が難しいと思われる現在完了については、それを第2学年に持ってきている教科書とか、あと第3学年で今までどおり教えている教科書、それと第2、第3とまたがっている教科書などいろいろあったんですけれども、この辺りのことについて調査部会のほうではこういうのが教えやすいというようなお話が出たかどうか、ということについてお聞かせいただきたいと思います。

○教育長（山下秀男） それでは英語についてお答えください。

○瑞雲中学校副校長（阿部啓介） まず、小学校との連続性という点についてですけれども、恐らく同じ出版社のほうで連続性が高く、教えやすいというのがあるかもしれませんが、各出版社とも、小学校以後との連続性については配慮されておりましたので、接続という意味ではどの出版社も工夫されているかと思います。

それと文法事項についてですけれども、例えば現在完了で言うと、ある出版社は2年生の終わりに現在完了を扱い、そして新しく習う現在完了進行形を3年生の初めに、2年生で習ったことを復習しながら、自然な形で3年生になってから現在完了進行形を扱うなどの配列に配慮しているところがありましたので、そういうほうが生徒が理解しやすいというふうに考えます。以上です。

○委員（紅林由紀子） ありがとうございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにございますでしょうか。

○委員（石川隆俊） それでは病系のことについてちょっと伺いたいと思いますが、まず新型コロナウイルス感染症の流行がありまして、いずれこの問題については学校でやはり扱う必要があるだろうと思いますけれども、こういう感染症につきましても内容がいくつかの本に出ているかどうかということ伺いたいこと、もう一つは最近心肺蘇生法というか救急医療が大変進んでまいりまして、特に民間人だとか救命救急、例えば病院でないところにおきまして、かなりの命を救っているわけです。こういうふうなことについて、やっぱり関心を持ってほしいと思うわけですが、よくある AED なんていうようなものがあって、一般の人も使っているわけですが、そういうふうなことについても、子どもたちというか学童の理解がもっと深まればいいなと思いますし、そういうことによって中学生にもなれば実際に救命救急に協力するということもあるのではないかと思います。お伺いいたしました。

○教育長（山下秀男） それでは保健体育の部会のほうからお答えいただきたいと思います。

○拝島中学校副校長（渡部 尚） それではまず 1 点目の感染症についてのことでございますけれども、どの出版社も感染症については非常に詳しく取り扱っていて、ただ、これがつくられたころには新型コロナウイルスの話は出ていなかったことが背景がありますので、採択されたあかつきには、どの教科書になったとしても教師側のほうで新型コロナウイルスについてのことも補助教材として準備をして関連させて取り扱っていく必要があるかと思っています。ただ、性感染症も含めて肺炎等も含めて、非常に各社とも十分に取り扱っていますので、あとはこちらで準備する教材次第かなというふうには感じております。

2 点目の心肺蘇生についてですが、これも各社ともイラストや写真などを使って非常に詳しく載せております。東京書籍のほうが先ほどもお話しさせていただきましたが、QR コードで自社コンテンツにリンクさせていて、スマートフォン等でも視聴できるという形になっていまして、この心肺蘇生法も 5 分から 10 分程度の内容で、動画として見られるという工夫が東京書籍にはされておりました。以上です。

○教育長（山下秀男） よろしいですか。
ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） すみません、もう 1 点なんですけれども、今回、本来でしたらことしオリンピック・パラリンピックが行われる予定になっていたわけですが延期されたということで、教科書によって、かなりそのことを大きく取り上げている教科書も何社もありました。この点について、調査研究部会のほうでは何か大きく載っていると困るなどか、何かそういったような類いの御意見があったかどうかだけちょっとお聞きしたいんですけれども。

○教育長（山下秀男） 保健体育の分野からお願いします。

○拝島中学校副校長（渡部 尚） 保健体育の中には、単元としてオリンピック・パラリンピックがあるわけではなく、あくまで文化としてのスポーツの中の一つとしてオリンピック・パラリンピックを扱っている教科書があるということなんです。教科書の内容で扱っているというよりも、表紙をめくった最初の絵や写真が載っているところで、4社のうち3社が非常に詳しく扱っていて、1社が載せていなかったということになります。これも文化としても一つの単元を扱うところで、教師のほうで表紙のほうに写真が載っているほうが関連させて指導しやすいということが言えると思います。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。ほかにございますか。

よろしいですか。それでは中学校教科用図書選定資料作成委員会の調査報告書の報告及び質疑が終わりました。

続きまして、特別支援学級の教科用図書選定資料作成委員会の調査報告書について報告と質疑を行います。

知的障害特別支援学級設置校の校長副校長の皆様に教科用図書選定資料作成委員会委員長として出席していただいておりますので御紹介を御願いたします。

○統括指導主事（佐々木光子） 特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会委員長の校長、副校長の皆様を御紹介いたします。

共成小学校、佐伯校長です。

つつじが丘小学校、上田校長です。

田中小学校、土屋校長です。

昭和中学校、佐藤副校長です。

多摩辺中学校、相部校長です。

○教育長（山下秀男） 知的障害特別支援学級設置校の校長、副校長の皆様には、改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

報告書の報告と質疑応答に入りたいと思います。

なお、質疑応答につきましては最後に一括して行うこととしてよろしいでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） それでは、最初に小学校の特別支援学級設置校であります、共成小学校佐伯校長から説明をお願いします。

○共成小学校長（佐伯孝司） 共成小学校でございます。特別支援学級の教科書におきましては、在籍の児童の実態により合った学習活動が進められるように考慮して選んだところでございます。特に、次の4点につきまして考えたところです。

第1にスモールステップで、できた、わかったという達成感を持つことです。特にできるようになるために頑張ろうという意欲につながるように、ステップが明確で一つひとつわかりやすくなっているというものを選びました。

2点目です。日常生活での経験と結びつけやすい題材が選ばれていることです。子どもたちの興味、関心を学習活動に結びつけやすくなります。また、自分の経験を基に理解しよう、経験を踏まえて考えようという態度に結びつけること。学習のあとにも、学んだことを生活で活用することを通して自信を持ちやすくするということにつなげていきたいと考えました。

3点目はモデルがわかりやすいということです。どのような学習のゴールを設定しているかというモデルがあることによって、学習意欲が湧いてきます。また、成果が出たときに達成感を持ちやすい。つまりいたときに振り返りやすいということをメリットと考えています。特に、視覚的にモデルが捉えやすくなっているものを選びました。

4点目です。自分で学ぶことができるということです。家庭学習などの自学自習においても学習を進めやすいものというのを考えました。それが学習習慣につながっていくというように考えています。また、活動を通して学びやすい内容になっていて、主体的な学びにつながるというふうに考えます。

検定本につきましては、児童の通常の学級での交流及び共同学習、あるいは学習問題の的確さ、問題解決のステップ、練習問題の適切さなどについて考慮して選んでおります。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

続きまして、つつじが丘小学校、上田校長お願いいたします。

○つつじが丘小学校長（上田祥市） つつじが丘小学校です。教科書採択にあたり、重要と考えたことは、特別支援学級の児童の実態、授業の実態に応じた内容のものを選ぶということです。本校の「杉の子学級」は本年度42名が在籍し、6学級編成となりました。来年度も同程度、またそれ以上の児童数が予想されます。そのため、学年ごとに児童の特性の違いや学力の差が大きく、個別指導計画との整合性、そして学級ごと、または少人数での指導形態の授業の計画性、系統性について考慮する必要がありました。選定の視点は3つです。まず視覚的にわかりやすく意欲が増す内容であること、次に、学んだことが実生活で再現して生かす内容になっているということ、最後に学力の定着に向けて継続性があるということです。

来年度はこれまでよりも多くの学年、教科で検定済み教科書を選んでいきます。特に算数では、5年児童に4年の教科書、6年の児童に5年の教科書を選んでいますが、その理由は、算数、少人数での積み重ねにより、検定済み教科書を使っても可能な学力がついてきた児童が増えたことにあります。教科書内QRコードを使って視覚的な資料を使えることも大きなメリットであり、これまで以上に使いやすくなりました。また、通常学級の交流授業が可能な教科がある児童がいることも選んでいる理由です。検定教科書以外では、児童は各学年とも学力に大きな差があり、個々に合わせた教科書が必要なため、教科ごとに適したものを数種類選んでおります。

次に教科ごとに簡単に説明します。

国語科は、児童の実態に合わせて小グループ学習や個別学習を行っており、グ

ループ学習では以下の3点に重点を置いて選定した教科書を活用します。

1つ目は物と言葉、言葉と気持ちをつなげることができるように、挿絵などでイメージを広げ、語彙を増やしていけるようなもの。

2つ目が、子どもたちがイメージしやすい日常生活に生かした内容で理解して実践する力をつけられるようなもの。

3つ目が、ひらがな、カタカナ、漢字の学習について視覚的に捉え、スモールステップで学び、読み書きの力をつけられるものです。

書写は、全学年検定教科書を使用します。

社会科は3年生は、副読本「わたしたちの昭島」とあわせて検定教科書を使います。地図帳は3年生から6年生まで4年間使用しますが、高学年はより視覚的にわかりやすいものを使って理解を深めます。

算数科は、児童の実態に合わせ小グループ学習や個別学習を行い、先ほど説明しましたように、個々の実態に合わせた教科書を使用します。

理科は自然観察や化学実験などを細かく解説している教科書を活用します。6年理科1名の検定教科書は交流学习をしている児童用です。

生活科は通常学級との交流が多く実施できるので、検定教科書を使用します。音楽科と図工科は、1年生から3年生、4年生から6年生の2つに分かれて授業を行い、検定教科書を使用します。道徳は、検定教科書を使用し、内容をより丁寧に伝えながら、考えさせる授業を行います。

英語は、検定教科書を使いながらアクティビティを工夫し、楽しんで学べるようにしています。

以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございました。

続きまして、田中小学校、土屋校長お願いします。

○田中小学校長（土屋正登） 田中小学校です。調査の観点として3点考えました。

第1点目は子どもの実態に即したものの。当然、興味・関心をずっと持てるもの。現在、田中小の児童が27名、昨年は18名でした9名増えました。2学期には30名になります。27名のうちの7割が途中転学です。このような子どもの実態も踏まえて選定しました。

2点目は、教科用図書の系統性を重視しました。一人ひとりがどんな学びをしてきたのか、どんな教材を使ってきたのか、一人ひとりのカルテをつくっています。

3点目は、当然、個別指導計画に沿ったものであります。例えば国語、挿絵から入る子が、適しているな、という子には、星本、俗に言う支援学校での検定教科書、これを星本と呼んでいます。星が1個、2個、3個、これよりもう少し進むと、例えば同成社の「ゆっくり学ぶ子」のシリーズ、1年から4年まであって、カタカナ、漢字、単語、文章、そのあとと詩とか作文、こういうふうに進展をしていきます。高学年レベルになると、「くらしに役立つ国語」、そしていろんな作文が出てきたり、長い文が理解できたりということになります。個別指導計画の中で、例えば10までの数の足し算、引き算ができるようになりたい、したい、そう

いう子には、童心社の「0から10までのくりかえし」というような、そういうものも一つの教材として、教科用図書として与えて学習しています。

特別支援学級は、今日できました、でも同じことが明日できるとは限りません。明日できるように、また、あさってもできるように、粘り強く諦めずに定着させていきたいなというふうに思います。

ともかく、自立に向けて学力をつけていくことを選定した教科用図書で目指していきたいと思います。

以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。続いて、昭和中学校、佐藤副校長お願いいたします。

○昭和中学校副校長（佐藤信雄） 昭和中学校特別支援学級、1組と申しますが、教科用図書の採択にあたって重視した点は、まず、スモールステップで学ぶことができるかどうかということです。これは、小さな段階で何回か達成感を高めて自己有用感を高めていくということも効果がありますし、生徒の実態として個別に触るけれども、とにかく集中力を保つために工夫されているということで、スモールステップで学べるかどうかを重視しました。またもう一つが、見てわかりやすいか、見て興味関心を惹けるかどうか、これについては、やはり集中力の問題と視覚情報の処理をやや苦手とする生徒もおりますので、そういったところに対する配慮するというところで重視しました。

最後にもう一つが、非常に生徒の習熟の幅がございますので、ある程度の幅をカバーできる教科書をということで選びました。

そういうことで、各教科にわたって検定された教科書とはまた別に、一般書籍の中から教科書を選びまして学習に提供できるようにいたしました。

以上です。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。続いて、多摩辺中学校、相部校長お願いいたします。

○多摩辺中学校長（相部公太郎） 多摩辺中学校における調査結果の報告をいたします。

本校では、特別支援学級8組に通う一人ひとりの個別指導計画の目標と実態を踏まえ、自立の力を育成する上で、学習に効果があるかどうかという観点で調査をいたしました。

具体的には内容及び構成に関して、次の3点に重点を置いて検討いたしました。

第1に学びやすさです。生徒が意欲・関心が持続できる内容、構成になっているかという観点です。

第2にわかりやすさです。さまざまな特性を持った生徒にとってわかりやすくまとめられているかという観点です。

第3に実生活とのつながりです。学習したことと実生活がつながっている工夫がされているか、という観点です。

生徒にとって学びやすく、わかりやすく、そして実生活とのつながりに気づく

ことができるか、そして、わかった、できた、学んで楽しい、面白い、という実感が持てるか。その姿を想定して適切な教材として教科用図書を選ばせていただきました。

詳しくは報告書を御覧ください。御審議のほどよろしくお願いいたします。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

特別支援学級用教科用図書選定資料作成委員会委員長の校長、副校長の皆様、大変ありがとうございました。

それでは特別支援学級の教科用図書選定資料作成委員会の調査報告につきまして、委員の皆様から御質問などございましたらここでお願いしたいと思います。

○委員（氏井初枝） 御説明ありがとうございました。2点お尋ねをさせていただきたいと思います。

1点目です。田中小学校の家庭科についてでございます。家庭科の教科書は、「家庭科の教科書 低学年から高学年」という山と溪谷社のものと、「みんなのためのルールブック」という草思社のものと2冊この表に載っています。5年生と6年生の人数は4名と5名なんですけれども、5年生のお子さんについては、家庭科の教科書というのを使えない。それから6年生のおさんは草思社のものを使うのかなというふうに見たんですけれども、6年生は5名なのに4と書いてあるのは、これはどういうふうにして表を見ればよろしいのでしょうか。

○田中小学校長（土屋正登） 来年の数で見込みも含めて入っています。そしてここに書いてある、6年がこの教科書だけを使う、5年が、それだけを使うということではなく、相互にグループ学習をしたり、主にこの学年でこれを使用しますということです。以上です。

○委員（氏井初枝） わかりました。ありがとうございます。

あともう1点は、多摩辺中学校の校長先生にお伺いしたいと思います。6個の教科につきまして1年生だけ購入をするという教科書がこの表に載っているんですけれども、同じ教科書を3年間使うという見方をすればよろしいのでしょうか。具体的には、理科から次のページの英語までの教科です。

○多摩辺中学校長（相部公太郎） すべて3年間使っております。子どもの発達と成長に合わせて繰り返し使うときもありますし、1年の時に購入して3年間使うというふうに御解釈いただければと思います。

○委員（氏井初枝） わかりました。ありがとうございました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 2点、お尋ねしたいんですけれども、小学校の校長先生方なんです、英語がどの学校も「NEW HORIZON」の小学生の検定本になっているんですけ

れども、先ほど上田校長先生が、アクティビティに工夫をしてやっています、というふうに御説明いただいたんですけれども、去年採択されていたいて、検定本、それなりに難しいかなというような気もしたんですけれども、どんな活動にすると、新学期の子どもたちが検定本を使って楽しくというか勉強していけるのかというような、その工夫のところをお聞かせいただきたいというふうに思いますのが1点と、あと先ほどQRコードというお話もありましたけれども、そういった特別な支援が必要なお子さんたちも、すごく今、認知度も上がっていて理解度も上がっていると思うんですけれども、それにしたがって教材もそういった意味で、進化というか新しいような、そういうものが出てきているのかどうかという、ちょっと採択と外れるところもあるかもしれないんですけれども、そこら辺はぜひお聞かせいただきたいと思います。

○教育長（山下秀男） それでは英語に関してはどなたか。上田校長先生お願いします。

○つつじが丘小学校長（上田祥市） 英語ですけれども、確かに検定教科書の内容だけをずっとやっていると、かなり難しいところがありますけれども、特別支援学級の授業では、やはり独自の教材を開発しながら、物を見える形で、例えば先日、本校でやっていた授業の中では、あるお寿司のプレートがあって、そこにいくつかお寿司があって、そのお寿司は日本語で言うんですけれども、それをくださいとかいうことを英語で会話をしながら続けていくとかいうような形で、工夫して使ってアクティビティで学んでいく、そういうことが大きいと思います。

QRコードについては、今後やはり特別支援学級の子どもたちって視覚的なものが必要なのと、子どもたち自身がやはりiPadであるとかそういうタブレットに触れることが非常に多くて、逆にそのほうが理解しやすい子たちもたくさんいます。今後、タブレット等が配布されたときには、恐らく大きくその辺の教材も変わってくるのではないかなというふうには予想されるところで、デジタルコンテンツは非常に特別学級の子どもたちにとってみれば、かなり有効に活用されていくのではないかなというふうには考えています。

○教育長（山下秀男） はい、ありがとうございます。

ほかにございますか。よろしいですか。

それではこれで特別支援学級の教科用図書資料作成委員会の報告及び質疑を終わります。

このあと採択に関する審議に入りますので、校長、副校長の皆様には、ここで御退席をいただきたいと存じます。本日は大変ありがとうございました。

また、ここで休憩を取りたいと思います。会議の再開時間は10分程度休憩を取りたいと思いますので、15時40分からということではよろしいでしょうか。では会議の再開は、15時40分からいたします。暫時休憩いたします。

（ 暫時休憩 ）

(再 開)

○教育長（山下秀男） それでは休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

初めに中学校の教科用図書の採択を行います。中学校の教科用図書の採択にあたりまして、ここで委員の皆様から昭島市の生徒にとってどのような教科書がふさわしいかなど御意見をいただきたいと思います。

その際、事前にお配りしております市民の皆様の意見についても、あわせて御意見をいただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。そのあと 10 教科、16 種目ごとに審議し採択を行ってまいります。

採択につきましては、無記名で投票していただき教科用図書を決定したいと存じますが、このような決め方でよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。それでは各委員から意見をお願いしたいと思います。

○委員（紅林由紀子） まずは、市民の皆様からたくさんの御意見をいただきました。ありがとうございます。とても高い関心を持っていただいておりますことをありがたく、私どももしっかり取り組まねばと励まされました。御意見は全部読ませていただきまして、考える上での参考にさせていただきました。その上で、私は昭島の生徒にふさわしい教科書を考えるにあたり、さまざまな意味で多様な子どもたちがみんなで学べる教科書を学びたいというふうに考えております。ですので、以下の 3 点が大事だというふうに思っております。

1 点目といたしましては、中学生は、得意、苦手、自信の有無などを強く意識する年ごろだと思います。一方、新学習指導要領の実施によって教科の内容は広がっております。ですので、さまざまな子どもたちが取り残されることなく学べる工夫、配慮が充実しているものを選びたいと考えております。具体的には、見やすいレイアウトや学習のまとめ、毎時の授業の流れが見通せて授業の入口で生徒たちの興味関心を植えつけるような、そういったつかみのあるもの。また、苦手な子にとってはスモールステップで理解を助ける工夫があって、得意な子にとってはより発展的な情報もあり、理解をどんどん広げて、深めていけるような幅のあるもの、というようなことです。

そして 2 点目といたしましては、多様性と相互理解、平和、環境などの内容がしっかりと押さえてあるもの。そのためにも、多面的、多角的なものの見方、考え方を身につけていけるようなものを選びたいと考えています。また今回のコロナ禍での休校も考えると、ある程度自覚できるような、読んでわかりやすい説明やデジタルコンテンツの充実なども考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

続きまして、石川委員よろしいですか。

○委員（石川隆俊） 私は、この本を選んで丁寧に読んでいただきまして、重要なところにつつまして、きちっと私どもに教えていただいた、本当に部会の先生方に御礼を申し上げます。それがなかったら私どもはとてもこれだけの理解はできなかったと思います。そういうほかのところ、一つの教科に対して7名の先生方がずっと関わっていたことを聞きまして敬意を表します。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。
氏井委員お願いいたします。

○委員（氏井初枝） 氏井です。教科書を採択するという責任の重さを痛感しております。では、採択にあたりまして基本的な考え方を簡単に述べさせていただきたいと思

います。
採択する際の観点が2つございます。1つ目は、本市の生徒が意欲的に学べ、力がつく教科書かということです。日本の子どもの課題は、知識は多いけれど自ら考え表現するのが苦手、それから学ぶ意欲が低いというようなことが国際調査で指摘されてきました。これは本市の中学生にも当てはまると考えています。このままだと、今後、予測困難な時代がその中を生き抜いていくというのが困るのではないかなというようなことから、新学習指導要領では、学び方改革ということを目指してそれをねらいとしているという状況があります。今回の教科書というのは、そのねらいが形になったものではないかなという捉え方をしております。具体的には、主体的、対話的で深い学びが重視されている教科書で、生徒同士の対話型の活動が増えました。それから学び方の過程を丁寧に扱うという傾向が強くなりました。さらに教科への関心を高めようということで実生活の素材が多く取り上げられています。さまざまな工夫がされている教科書の中で、昭島の生徒たちの実態とか地域性を考慮してよりふさわしいものを採択したいというふうに考えております。教科書を学ぶのではなくて、教科書で学び合う、そういうことによって生徒が学ぶ大切さというのを身につけて、たくましく生き抜いていってほしいなということを願っております。

観点の2つ目は、教師が授業を進めやすい教科書かということです。御存じのように、今、学校では若い教師が増加していて、教え方を先輩から教わるということがなかなか難しい状況になっています。そういう状況の中で、先ほど述べた学ぶ過程を丁寧に扱うという工夫は、生徒にとって学習しやすいというメリットがあるだけではなくて、経験の浅い先生方にとっても授業が進めやすい側面もあるのではないかなというふうに考えております。

最後になりましたけれども、教科書採択に向けまして、市民の方々からたくさん意見をいただきました。ありがとうございます。皆様方からの声も参考にさせていただきます。

以上が採択にあたりましての私の考えです。

○教育長（山下秀男） ありがとうございました。
白川委員、お願いいたします。

○委員（白川宗昭） 白川でございます。私は基本的な考え方ということでございましたので、まずは当たり前のことでございますけれども、日本国憲法を尊重するという立場は私は重要だと思っております。国民主権、基本的人権の尊重、平和市民というものがどの教科書にも、やっぱりそういう目で見える必要があるのではないかというふうに思っております、まずこれを掲げたいと思っております。

それからもう一つは、4、5年前ですか、国連によって示されましたグローバル目標、SDGsでございますけれども、持続可能な開発目標、そういう社会づくり、これがやっぱり今後、今、コロナなんかもそうなんですけれどもすごく大事になってくるんじゃないかなと思います。そういう意味においてこのSDGsを取り上げている、大体、取り上げているところが多いんですけど、これもまた全般に各教科にわたってのことですけど、そういうものも重視していきたい、この2つを基本的姿勢というふうに私は見ております。その上で、先ほど来、先生方もおっしゃっていましたが、生徒にふさわしい教科書選びというんでしょうか、先ほどの特別支援学級もそうでしたけれども、本当に細かく対応されておりました本当に敬意を表しますけれども、そういう見方、生徒にふさわしいか、生徒のためになるか、親切であるか、学校生活が楽しく送れるような教科書であるか、そういう視点、子どもたちの視点というものを一つ大事にしていきたいと思います。

それからあと主体的、対話的、深い学び、そしてそれを話し合いによって解決するということもすごく大事になってくると思います。そういう点を生徒を中心とした教科書選びといいますか、そういう視点を一つ持ちたいと思っています。

もう一つは、先生方、先ほど来おっしゃっていましたが、先生方の御意見、それから先ほどの調査報告書、こういうものを尊重して、教えやすい教科書選びとその辺に視点を置いて選んでいきたいなということでございます。

それから3つ目は市民の方からいろいろと御意見もいただいております、全部読ませていただきました。またいろいろな団体からもいろんな御意見が来ております。そういうものも参考にして耳を傾けて採択の参考にさせていただきたいなというふうに思っています。

それからあと、今日的な問題として、コロナというものが今非常に大変な時期になっておりますので、来年ぐらいに解決するかどうか分からないという状況もありまして、今後オンライン授業、そういうものが多くなってくるかもしれませんし、自習なんていうものも考えていかなきゃな、そういうものにも適しているか、あるいはきちっと取り上げているか、QRコードとかDマークだとか、インターネットとか、そういうものをきちっと活用なされているかというふうな点もやっぱり今日的課題として大事なんじゃないかなと思いますので、その辺についてもきちっと見ていきたいというふうに思っています。

大体その3点でございます。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

今、各委員の皆様からそれぞれに教科書選定にあたっての考え方をお伺いいたしました。

私からも重ねて申し上げることはあまりないんですけれども、とにかく教科用図書選定資料作成委員会の委員の皆様、それから学校側の調査研究部会の部会委員の皆様に、改めまして、さっき石川委員のほうからも御発言がありましたけれども敬意と感謝を申し上げたいと思います。非常によく的を射た調査報告書を提出をいただきまして、これに沿って教科書を見ていくと、なるほどな、と頷かざるを得ないということがたくさんありました。中学校の教科書になりますと、もう教科によりますけれども、非常に1年、2年、3年に行くにしたがって、やはり難しさというものがぼんぼんぽんと高まっていくというような印象を持っています。そんな中で、今回、市民の皆様からの御意見、市民の皆様からの御意見も、昨年小学校の時は30通だったんですけれども、今回、中学校は41通と昨年を上回る御意見を頂戴いたしました。その中でやはり傾向的には、とにかく子どもたちが学びやすい教科書、それから先生たちが教えやすい教科書、これは当たり前のようなことですが、やはりこれが本当に基本中の基本だというふうに考えて捉えております。今、昭島市では学んで楽しい、教えて楽しい、楽しい学校づくりというのを一つのスローガンにして、楽しい学校づくりをしようというようなことで日々教育活動に取り組んでいるところでありますが、そういった学んで楽しい、教えて楽しいという視点も加味しながら、私は今回の選定にあたって教科本を見させていただきました。いずれにしても非常にどの社についてもすごく工夫されていて見やすいものが大半を占めています。なかなか選定のほうも難しいと思いますけれども、とにかく新しい学習指導要領に沿って、また昭島市の教育振興基本計画、これにもこの施策を進めるにあたってよりよい教科本ということで採択をしていきたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、国語から順番に審議、採択を行ってまいりたいと思います。まず、採択にあたりまして、国語の教科について委員の皆様から御意見等があればここで御発言をお願いしたいと思います。

○委員（氏井初枝） 4社ともそれぞれの領域の力を伸ばそうというような工夫が見られたりとか、それからオンライン教材にも工夫がされているなということも感じました。QRコードの中には討論の実技が見られるようなものもございました。どこもいろいろ工夫されていてすばらしいと感じたのですが、特に私、光村でこの調査結果報告書の①説明文から評論とか、文学教材、日常的な話題から発達段階に応じた、広がるようにということ、それから③のところでございますけれども、古典教材が工夫されて配列されている、そのところが特に本市の生徒にとってはいいのではないかなということを感じました。

○教育長（山下秀男） はい、ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 私も4社とも大変すばらしい教科書だなと思ったんですけれども、中でも光村は、先ほど氏井委員のほうから発達段階に合わせたというお話がありましたけれども、その中で説明的文章に、今日の問題、メディアリテラシーとかAI、環境、あとは国語ということで言葉をテーマにしたものなど、大変すばらし

いものが多いと感じました。特に「君たちはどう生きるか」とか、あとはこれからの生き方をテーマにした「不便の価値を見つめ直す」とか池上彰さんの「自分で考える力を持とう」とか、3年生になると哲学者の鷲田清一さんの「誰かの代わりに」という文章は、本当に大人が読んでも感銘を受ける、非常に示唆に富んだ素晴らしい説明的文章だというふうに思いますので、光村がいいかと思います。あともう1点、読む單元には、文学的文章、説明的文章を読むためのポイントがまとめられて、その他、情報の内容の捉え方、整理の仕方の要点が解説されている「思考のレッスン」、「情報処理のレッスン」というようなページもあって、そういったことの読解力を高めていく、あるいは言語活動を高めていくための学習が効率的にできるというような部分も素晴らしいというふうに思いました。あと、間に四季折々の「季節のしおり」というのがあるんですけども、ここに俳句とか短歌とか季節の行事と暦の紹介が美しいイラストとともに紹介されているんですけども、これもやはり日本人ならではの情感に訴えて大変心に訴えかける素晴らしいものだなというふうに感じました。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（白川宗昭） 私も光村がいいというふうに基本的には思っています。ただ、東京書籍の巻末のほうに、文法についての解説が非常によくきちっと載ってしまっていてこれでもいいかなというふうにも思いましたが、光村のほうは特に古典に注目してみたんですけども、ほかの教科書もですが、竹取物語というものを中1で扱っていますけれども、その前の段階で、前段として「いろはうた」というのを取り上げてしまっていて、いろはにほへとって、今は、あいうえお、かきくけこの時代でして、いろはにほへというのはいりませんけれども、これはやっぱり日本文化というか、そういうものをきちっと意識して載せているんだなというふうな、私は導入部分として竹取物語が載っているというのは、私は非常にいいんじゃないかなというふうに思いました。それから、国際問題とか社会問題とかいうふうなものも国語の教科書で取り上げている例も多いと思いました。米倉さんという人の「大人になれなかった弟」、戦争のことですけども、あるいはモアイ、イースター島のモアイ像のこととか、文明の消滅というようなこと、あるいは紛争、エルサルバドルの商人とか非常に国際色豊かな取り上げ方をされているというところも評価できるのではないかなというふうに思っております。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、国語の教科用図書につきまして無記名の投票により決定いたしたいと思えます。御記入をお願いいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） それでは投票の結果を事務局から報告を御願いたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 各出版社の正式名称を一部省略して報告させていただきます。
国語、東京書籍0票、三省堂0票、教育出版0票、光村図書5票、以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま、投票結果の発表が終わりました。

国語につきましては、光村図書出版株式会社が多数のため、同社を採択いたします。

続きまして、書写の教科用図書について審議、採択を行います。御意見等ございますか。

○委員（氏井初枝） 毛筆と関連させて硬筆の学習を行うという形なんですけれども、そういうことで言いますと、光村図書についている別冊のものがすごく使い勝手がいいなということを感じました。光村の書写はサイズも小さめですし、その別冊があるということで、実際授業の中ですごく使い勝手がいいんじゃないかなということを感じております。

それから文字文化のコラムのところでは、ユニバーサルデザインに触れているページがあるんですけれども、これもユニバーサルデザインの文字というのが教科書に使われていますし、日常生活いろいろなところに入り込んでいる文字なので、今のことについて触れているということも、生徒にとって関心のあることを扱っているなということを感じました。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（白川宗昭） 私はそれぞれ皆、特徴がありますけれども、基本的なところは皆押さえているような気がいたしました。硬筆についても、毛筆についても。ちょっと注目したいのは、私は、書写という分野はやっぱり高校に入っていくと選択科目になってくるわけですし、中学生で教わるのは最後の人も多いわけですね。そういう意味において、書写、書くことももちろん大事なんですけれども、加えて書道芸術というか、美術というかそういう観点から鑑賞するというか、そういうことも私は大事なことはないかなというふうに思うんです。ということと高校で教えることは多いと思いますけれども、最低限、中学でも鑑賞するというようなこと、そういうチャンスを与えるということはすごく大事なことはないかなというふうに思いまして、そういう観点から言うと、教育出版がいろんな硬筆なんかを載せているわけで、床の間にちょっと飾ったりなんか、そういう写真もあるわけです。そういう意味で教育出版がいいかなというふうに思っております。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 私は、大変書写は苦手なものでして、そういった立場から教科書を見ていった時に、光村はQRコードから直接ページに飛んで動画で書いている、お手本を書いている動画が流れます。それによって筆運びのリズムとか、そういうものまでよくわかるのでとてもいいなというふうに感じました。あと、教育出版については、調査報告書にありましたけれども、手本に中心線、補助線があり、そういった意味で形を取りやすいという意味でそちらもいいなというふうに感じ

ました。そこら辺はちょっと甲乙つけがたいという印象だったんですけれども、巻末に常用漢字表がございまして、楷書と行書が見比べられて、調べられるようになっているわけなんですけれども、その見やすさが光村は横並びで、楷書行書が上下に並んでおりまして、それであいうえお順だったんだと思います。教育出版は部首順だったと思うんですね。その点の使い勝手から考えると、光村のほう使いやすいのかというふうに感じました。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。

そうですね、光村のほうが全体的になんとなくイメージしやすいというか、ちょっと見ましたけれども。

それでは書写の教科用図書についてここで無記名投票により決定いたしたいと思います。御記入を御願ひいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 報告いたします。東京書籍 0 票、三省堂 0 票、教育出版 1 票、光村図書 4 票、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

書写につきましては光村図書出版株式会社が多数のため、同社を採択いたします。

続きまして、社会（地理）の教科用図書について審議、採択を行います。御意見等お願いいたします。

○委員（氏井初枝） 4 社とも、内容、それから構成上の工夫についても、すばらしく、いい教科書だなということを感じました。そんな中で帝国書院につきましては、写真ですとか資料、図や表がとても鮮明で見やすいし、生徒たちの興味とか関心を引くというインパクトが強いものになっているというところがすごく心に残りました。東京書籍は資料がちょっと若干多いかなという印象を受けました。

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（白川宗昭） 私は今の氏井先生と似たようなことでございます。帝国がいいかなというふうに思います。全体の出来映えとしては本当に東京書籍にしても教育出版にしても本当に遜色ないものだというふうに感じましたが、一つ、ハザードマップというのが今、今日的に非常に大事なことなんですけれども、帝国書院がその辺についても 2 ページにわたってきちっと書いている、ほかでも書いてはおりますけれども、それがいいんじゃないかなというふうに思います。あるいは防災の情報の入手の仕方とかいうふうなものも帝国書院には載っております、実際の生活をしていく上で学んでおいたほうがよいようなことが載っているというふ

うに思いました。そういう意味でいいと思います。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。

ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 私も帝国書院が最もふさわしいかなというふうに感じました。それは何を学ぶのか、どう学ぶのか、どうして学ぶのかをきちんと押さえているものがよいというふうに考えて、その点で帝国書院は、巻頭ページで地理的な見方、考え方についてどういう視点を持って学んでいけばいいかをキャラクターのせりふでわかりやすく簡潔に示しているのがいいというふうに感じました。日本文教もその点表紙の見返しに同じようなページがあったんですけども、帝国書院のほうがよくまとまっているというふうに感じました。

また、学習する側から考えますと、帝国書院の各単元末の学習の振り返りは、まず、穴埋めやキーワードチェックで知識を確認して、その後、学習内容を表で整理させて、そしてその単元の根本の問を自分の言葉で説明させるという、そういう発展的な所まで行くというステップが大変よくできているのではないかなというふうに考えました。

あと、最後の章が、各社ともこれからの地域のあり方というような内容の章になっているんですけども、そこは、帝国書院のその部分の序説に、日本世界の地域が抱える課題と解決の取組について、これまで学んできたことを地域をよりよくしていくためのヒントにして、持続可能な社会を考え続けていきたいと思います、そういった学びの目的というか道筋が示されているのは大変いいんじゃないかなというふうに考えました。

あと、取り上げている地域が修学旅行や課外活動で行く可能性の高い京都や鎌倉、そして地域調査では同じ東京都の練馬を取り上げられているのも親しみを持って学べるかなというふうに考えました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。

それでは社会（地理）の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。記入を御願いたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） 投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 社会、地理的分野でございます。東京書籍 0 票、教育出版 0 票、帝国書院 5 票、日本文教 0 票、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がございました。

社会（地理）につきましては、株式会社帝国書院が多数のため、同社を採択いたします。

続きまして、社会（歴史）の教科用図書について審議、採択を行います。御意見等ございましたらお願いいたします。

○委員（白川宗昭） 歴史は非常にたくさんありまして大変だったわけでございます。市民の方々の意見なども参考にいたしましたけれども、一つは大きな問題ですけれども、憲法についてというようなことがございました。少し一部の所に偏りすぎているとか強調しすぎているとかいうようなこともありますし、実際に、育鵬社、学び舎というところはちょっとそうなのかなと思って読んでおりました。

育鵬社につきましては、また別の所でも、例えば鎖国は日本にとってよかったのか、とか、明治維新はなぜ成功したのか、という問があるんですね。それから世界恐慌にどう対応すればよかったのか、というふうな非常に難しい問題を問いかけているんですね。明治維新はなぜ成功したのかって、歴史の教科書では普通はこういう問いかけはしないと思うんですね。成功したのか成功しなかったのかというのは、人によっても全然考え方は違いますし、よかった面、悪かった面というようなことも鎖国でもってはなかなか言えない複雑な問題、それを教えていくのが歴史だと思うので、良し悪しを教えるんじゃないくてですね、結論だけではなくて、という観点から歴史のターニングポイントという項目がちょっとやっぱり引っかかる部分でございました。

それから学び舎につきましても、タイトルのつけ方、小見出しというかタイトルの付け方が、例えば人類の誕生というところが、「木から下りたサル」と書いてあるんです。副題として「人類の誕生」という形になっている、こういうつけ方があちこち、全体にわたってそうなんですけれども、やっぱり歴史の教科書は「人類の誕生」が先にあって、そして副題として「木から下りたサル」とするならば非常に面白いんじゃないかと思うんですけれども、逆になっているのはいかなものかなと。「ブッダになった王子」というタイトルもあるんですね。それは何のことを言っているのかわからなかったんですけれども、脇には「インドの文明」と書いてあるんですよ。やっぱりインドはいいんだけど、ブッダにというのはちょっと違うような気がいたしました。そんなような意味で、それからあとは、学び舎は情報が非常に少ないというふうな感じもいたしました。見開きの所に世界地図とか日本地図とかが載っているんですけれども、ほとんど情報がないような地図が載っておりまして、もうちょっと活用できるんじゃないかなという感じもいたしました。それが2社についての感想であります。

それ以外の所はそれほど大きな違いを感じられませんでした。それぞれ言い面もあるし、ちょっと足りないかなという面もございますけど、私は一つ、帝国書院の歴史の教科書がいいかなというふうに思いました。その理由は、絵画資料という、歴史をタイムトラベルという項目が章の最初の所にありまして、その時代時代の知見を集約したような絵が描いてあるんです。そこでこれは何を言っているんですかとかいう設問が上のほうにあったりするんです。それについてはここを見なさいとちゃんと書いてあるんですけれども、その絵のつくり方が非常に私はすばらしいというふうに思います。導入の部分でも使えますし、また、終わってからの振り返りの部分でも使える。この部分はこういうことだったんだというふうに可視化しているというか、視覚に訴えてわかるというか、そういう使い方をタイムトラベルの絵図というかは、使っております。そういう意味で導入部分がすばらしいというふうに私は思いました。東京書籍なんかにも非常に導入、ある

いはまとめの部分もきちっとまとめてありますし、素晴らしいというふうに思いますけれども、今申し上げたような地図資料の使い方がという点において帝国書院を推薦したいというふうに思っております。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（氏井初枝） 歴史に関しては、過去の戦争に対しての扱い方というのは、ちょっと全く会社は同じではなくて、特徴的な捉え方を、書かれ方がしている教科書があるなというのがすごく印象が残りました。

私としましては、東京書籍がいいなというふうに感じているんですけれども、理由は調査結果の内容①発達段階に配慮されているということですとか、教科書のつくりの中で、チェックとかトライとかというのがどのページに載っているという、パターン化するというのも、学びやすいという所とつながりがあるかなというふうに感じているんですけど。そして反対側のページの下には年表がどのページにも載っていて、今、学習しているのはどこなのかと色がついている。そういう所はすごく歴史の学ぶ時には役に立つのではないかなというふうに感じております。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。石川委員。

○委員（石川隆俊） 歴史の教科書というのは、なかなか大人が読んでも面白くて、私も読んでいるときに夢中になってしましまして、よっぽどそれを選ぼうと思ったんですけれども、やっぱりちょっと特殊すぎる、ですから皆それぞれの本が面白く書けていまして、例えば山川出版なんかは実によくできていまして、最も日本の大先生が書かれていますので、はたして中学校でいいのかどうか分かりません。でも私は読んでいて夢中になって、まず1冊買おうと思いました。それは冗談です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 私は、歴史は地理と同じように、何を学ぶのか、どう学ぶのか、どうして学ぶのかきちんと押さえて、それが生徒にも伝わりやすいというようなことが大事なんじゃないかというふうに感じました。その点で東京書籍と日本文教は、頭のほうから過去と未来を結びつけて考えさせるような見返しや巻頭ページがあるというような意味で、いいかなというふうに感じました。その2社のどちらでもいいんじゃないかなというふうに思ったんですけれども、私は日文のほうが全体的に、少し、もしかすると簡単なかなというふうに思ったんですけれども、わかりやすいと感じました。例えば、第1編の「私たちと歴史」という歴史の学び方を学ぶ単位では、日文は歴史的な見方、考え方の手立てとして、時系列、推理、比較、つながりという大きく4つ挙げているんですけれども、それに沿って本編もこの4つの手立てを意識して構成されているのがいいというふうに感じました。例えば、中学校の歴史は日本を中心に世界との関わりを学んでいくわけなんですけれども、日文は日本と世界の各時代のつながりを意識して、各

単元の頭に世界地図が載っているわけなんですね。そしてその同時代の世界の状況が見渡せる、そして比較したり、つながりをつかめたりするところがいいと思います。あと比較したほうがわかりやすいものは、本文の文章ではなく、表とかで比較させたり、あと各ページごとに小さい年表があって、本文に書かれている出来事がどういう時系列で起こったのかというのが、一目見てわかるような配慮があるという点で、いいかと思います。

あと、ちょっと日文がおもしろいというか、感じたところは、巻末に歴史学習の基礎資料があるわけなんですけれども、その中に土地制度の移り変わりという物が年表にまとめられております。この土地制度という観点から、この社会の歴史の流れというのを移り変わりを考えさせるという点でも、とても面白いしいいのではないかなというふうに感じました。

しかし、先ほど白川委員の話を聞いて、そういう歴史の学び方もあったかというふうにもとても感銘を受けました。以上です。

○教育長（山下秀男）　ひととおり御意見、御発言いただきましたので、それでは社会（歴史）の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男）　それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦）　社会科歴史的分野を報告させていただきます。

東京書籍3、教育出版0、帝国書院1、山川出版0、日本文教1、育鵬社0、学び舎0、以上です。

○教育長（山下秀男）　ただいま投票結果の発表がありました。

社会歴史につきましては、東京書籍株式会社が多数のため同社を採択いたします。

次に社会（公民）の教科用図書について審議、採択を行います。意見等ありましたらお願いいたします。

○委員（紅林由紀子）　地理歴史と同じく、何度も繰り返しのになってしまいますけれども、何を学ぶのか、どう学ぶのか、どうして学ぶのかが押さえてあり伝わりやすいという点で、東京書籍と日本文教は、表紙の見返しで「持続可能な社会の実現に向けてこれからの社会を考える」、これは東京書籍です。日文は「これからの社会をどんな社会にしたい、国際社会共通の目標 SDGs」ということで、日本世界でということが今取り組まれているかを紹介しております。そのあたりがはっきりわかるところがいいんじゃないかなと思います。2社とも、導入、構成に生徒の関心を引く工夫があり、話し合い活動の課題やまとめ方も工夫されているので、2社のどちらでもいいんじゃないかなとは思うんですけども、歴史と同様に日文のほうが少し易しくてわかりやすいような、漫画が使ってあったりとか、そういう工夫があるので、誰でもわかるという意味ではいいのではないかなというふうに考えました。

あと、日文は巻末に用語解説のほかに、類似用語集というのがあるのがより親切だというふうに思いました。

あと、領土問題について各社、詳細な記述があったわけなんですけれども、それも客観的に、なるべく客観的に記述しようとしていらっしゃる努力を感じましたが、日文が発展的内容として「世界の領土問題とその解決」というコラムがありまして、その中で、世界がかかえる領土問題も一部紹介して、過去平和的に解決された例も挙げられているのは視野を広げられていいのではないかというふうに感じました。

あと、この2社にはなかったんですけれども、帝国書院だけ夫婦別姓について扱っていました。これは帝国書院だけ扱っていたのは、少し残念だなというふうに感じました。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（氏井初枝） 公民に関しましては、市民の方からいただいた声をじっくり読ませていただいて勉強させていただきました。そういうのも参考にさせていただく中で、私は東京書籍のグループ活動ができるような、その件に対しての配慮がされているというところが特に東京書籍いいなというふうに感じているんですけれども、「みんなでチャレンジ」というようなコーナーなんですけれども、最初は体育館の利用に関してということで、決まりについて考えよう、次は決まりをつくろう、次は決まりを見直そう、身近なところだけど段々広がっていく、それが回数を重ねるたびにすごく広がっていったらいい、死刑制度のことですとか、地方財政のことですとか、温室効果ガスのことすとかどれも大事なことで、子どもたちも考えてもらいたいというようなことの扱いがすごくいいなというふうに感じております。以上です。

○教育長（山下秀男） 白川委員。

○委員（白川宗昭） 私は東京書籍が最終的にいいと思いますけれども、非常に迷っておりました。帝国書院のほうは、最初の導入ページの目次から特設ページのコラムとかきちっと整理されていると、非常に見やすいと、最初の部分がそんな印象を受けました。

東京書籍のほうはそれよりも全体を通して話し合う活動というか、そういうのがあちこちにちりばめられていて、細かい問題から大きな問題、振り返りのコーナーなんかでも非常にそういう対話を重視したような内容づくりといますか、そういうのが非常に際立っているような感じがいたしました。

帝国書院もよかったんですけど、最終的にはやっぱり東京書籍の話し合いという部分が私は採用すべきかなというふうに思った次第です。

簡単ですけど以上です。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、社会（公民分野）の教科用図書につきまして無記名投票により決定

したいと思います。

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表をお願いいたします。
（投票用紙回収）

○指導課長（吉成嘉彦） 社会（公民的分野）を報告いたします。
東京書籍4、教育出版0、帝国書院0、日本文教1、自由社0、育鵬社0、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。社会（公民的分野）につきましては、東京書籍株式会社が多数のため、同社を採択いたします。
続きまして、地図の教科用図書について審議、採択を行います。御意見等ありましたらお願いいたします。

○委員（氏井初枝） 私は、帝国書院がいいなというふうに感じております。理由の一つ目は、先ほど地理が帝国書院に決まったということ、部長の先生から同じ会社がいいというお話がございました。それから、調査結果の報告書の内容の③でございますけれども、地図活用の問題があつて適切だということ。地図を活用した資料をページのテーマに関して着目する点、学習課題というマークで示されているところが学習に取り組みやすいかなということを感じております。それからサイズが帝国のほうが大きいんですけれども、やっぱり間隔、適度な間隔があつて、文字も大きくて見やすいということ、それから地理の時にも申し上げたんですけれども色が鮮明ですごく見やすいと感じていること、それから地図を開くときにこういうふうにしてめくりますけれども、右端にタグがついていて、それも学習の時に便利かなというふうに思いました。あと、これは些細なことかもしれませんがアキシマクジラの出土されたことが載っている、これは小学校までだったんですけれども、それは昭島市民として嬉しいかなと、きっと生徒も思ってくれるんじゃないかなと思っています。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますでしょうか。よろしいですか。
それでは地図の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。御記入をお願いいたします。
（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） それでは、投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 地図、報告いたします。
東京書籍0、帝国書院5、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。
地図につきましては、株式会社帝国書院が多数のため同社を採択いたします。
続きまして、数学の教科用図書について審議、採択を行います。御意見ある委

員の方、お願いいたします。

○委員（紅林由紀子） 数学につきましては、昨年小学校の算数は東京書籍を採択したと思うんですけども、同様に中学校でも東京書籍がいいと私は考えます。理由としましては、調査報告書にもございますが、ゼロ章として、算数、小学校算数から数学への移行の配慮がよくなされていること、先ほど調査研究部会の先生からお話がありましたけれども、自然数、素数、素因数分会の後に正負の数を学ぶという流れになっているということ、それから小学校教科書同様のレイアウトに基本的にはなっておりまして、新しい単元は右から始まり右側に導入の問を投げかけて考えさせ、その後ページを開いて主題ページ、考える、調べる、例題問題という流れで統一されているという構成が学んでいきやすいかなというふうに考えております。

あと、各ページに大切な規則、公式のまとめが色分けされていて見つけやすいというようなこと。それから数学というのはいろいろな知識、技能を積み上げていく教科なので裏表紙に該当学年とそれ以前の学年で学習してきた内容要点がまとまっているのは、わからなくなってきた時にそこを見ればいいというような点でとてもよく配慮されているのではないかなというふうに思います。

あと、最後にデジタルコンテンツも東京書籍は充実していて、操作したり動画を見たりということによって理解を助けてくれるものが多いというふうに感じました。以上です。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。
ほかにございますでしょうか。

○委員（白川宗昭） 私も同感です。先生がおっしゃったとおりでございまして、ゼロ章という最初の小学校からの移行の部分をやられているという点は本当にいいんじゃないかなと思います。

それから、最後の振り返り、調査報告書にもありますけれども、振り返り、見方、考え方の項目があって振り返り学習ができる。これはほかにないようなすばらしいまとめ方だというふうに思いました。

それから、図や何かが所々あるわけですけども、図やまとめが非常にシンプルで端的に押さえられているというか、そういう点もいいんじゃないかなというふうに思っています。そんなところです。

○教育長（山下秀男） ほかによろしいでしょうか。それでは数学の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと存じます。御記入をお願いいたします。
(投票用紙回収)

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 数学の結果を報告させていただきます。
東京書籍 5 票、大日本図書 0 票、学校図書 0 票、教育出版 0 票、啓林館 0 票、

数研出版0票、日本文教0票、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

数学につきましては東京書籍株式会社が多数のため同社を採択いたします。

続きまして、理科の教科用図書につきまして審議、採択を行います。御意見のある委員の方、御発言をお願いいたします。

○委員（氏井初枝） まず教科書のサイズでございますけれども、大日本だけ小さい。私は先ほど紅林委員がお尋ねなさっていたように大きい方がすごく見やすくインパクトも強いといいかなという印象を受けたんですけれども、調査部のほうではコンパクトなほうがいいというお話があったという先生方の御意見を尊重申し上げたいなということ。

それから報告書の①の所に発達段階に応じてということが書いてございますけれども、具体的に単元の前にこれまでに学習したこと、そういうページが見開き2ページ分になっているんですけれども、最初にこれまでに学習したことということで小学校で学んだことなんかに触れられていたりして、それからこれから学習することってつながっていくんですね。そういう見通しが立てられるようなつくりになっていることとか、発達段階に応じてということで大日本がいいなというふうに思いました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 私も大日本図書か、もう一つ、私は啓林館もいいなというふうに感じました。大日本図書は今氏井委員がおっしゃったようなつながりという意味でとてもいいというふうに感じましたことと、あと単元末に学習のまとめがチェックのスタイルで確認できるところと、それとは別に単元末問題とは別に読解力問題というところが設定されておりまして、それも発展的な学力を伸ばすためにもとてもいいのではないかなというふうに思いました。

啓林館は、先生方のお話からすると少し大きいという意味ではマイナスなのかなというふうに感じましたけれども、全体的に、写真、イラストが大きく見やすくそして多い多用されて、視覚に訴えて学べるという点で、理科という教科の性格から見ていいのではないかなというふうに感じました。そして記述も全体的に詳しくよく説明されているというふうに思いました。

そして、実験観察のページが縦にずっと流れていくようになっているんですけど、課題、仮説、計画、結果、考察と一本のラインで示されて、特に課題と仮設については、ここをしっかりと赤字で強調されているのが探究学習を進めていくのにもとてもいい構成なのではないかと思います。

あと右方に安全に実験を行うための必要な注意事項がマークとして記されているのも、安全に配慮されていていいというふうに思いました。

そして特徴的なのは、啓林館はQRコードを読むと「NHK for School」のコンテンツに飛ぶものがかなりありまして、さすが「NHK for School」という感じなんですけれども、内容的に興味を引くものが多いので、そういう意味で啓林館

がいいというふうに思いました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（白川宗昭） 私はやっぱり氏井先生のように一番小さいという意味でこれがいいかなというふうに思っています。それから先ほど相部先生だったか、理科の先生のお話を伺っておりまして、身近なところから学べるということ、それから基本を押さえているかどうか、それから広がりがあるか、身につけやすいかどうか4つの指標を示していただきましたけど、これはいいなと思いながら聞いておりました。

そういう意味で大日本図書が、1年生ですけれども12ページ、学校の周辺のいろいろな自然観察みたいなのところから入っていくんですね。その辺の扱い方はすごくいいんじゃないかな、身近な動植物というようなところが扱われているということでもいいんじゃないのかなと思いました。

それからあとSDGsですけれども、地震とか災害というふうなことについて、この教科書は触れているというふうな意味もございます。そんなところで大日本図書がいいのかなというふうに思っております。以上です。

○教育長（山下秀男） ほかはよろしいですか。

それでは理科の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 理科の報告をさせていただきます。東京書籍0票、大日本図書4、学校図書0、教育出版0、啓林館1、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

理科につきましては大日本図書株式会社が多数のため同社を採択いたします。

続きまして、音楽（一般）の教科用図書について審議、採択を行います。御意見がございましたらお願いいたします。

○委員（氏井初枝） 私は教育芸術社の教科用図書のほうがよりいいかなということを感じました。報告書の中で、構成上の工夫、配列のところでは2社を比べてみますと、教育出版には歌唱教材、鑑賞教材、創作、学習資料というのが入っているんですね、あと合唱曲集、国家という順番なんです。順番は教育芸術社も同じなんですけれども、教育出版に入っていた学習資料というのはいないんです。そのない分は何が入っているかと言いますと、合唱曲がたくさん入っているんですね。よく合唱祭で歌うとか小学校のほうでも卒業式や何かで歌う歌とか、そういう歌がたくさん入っているのが、子どもたちには学習資料ももちろん価値があるものなんでしょうけれども身近なところということでは、合唱曲がたくさん入っているのが

いいかなというふうに感じました。

それから写真によるインパクトってすごく私は大きく感じるたちなんですけれども、教育芸術のほうは、表紙をめくると野村萬斎さん、伝統をつなぐというようなコメントが書いてあって2、3年の上になりますと松任谷由実の写真が14歳の時間というので、そのころ自分はどんなだったのかというようなことが書かれていて、2年生、3年生の下になりますと、教材の中に合唱曲として入っている「春に」という曲の作詞家と作曲家の谷川俊太郎さんの写真が載っていると、そういうのがやっぱり子どもたちにはすごく馴染みがある教科書になるんじゃないのかなということを感じました。

それから「君が代」の扱いのことなんですけれども、両方とも巻末に載っていて、教育出版のほうは3冊の教科書ともさざれ石の写真が載っているんですね。同じ物を繰り返し載せるというようなメリットも当然あります。そのことは教育出版、楽典に関しても、3冊の教科書に統一されていると、だから同じものを繰り返し定着をきちんとさせたいという趣旨は感じるんですけれども、方や、君が代につきましては、教育芸術のほうは、いろいろスポーツのイベントで日本の選手団が歌っている写真が3回とも違うんですね。オリンピックの時の写真、それからラグビーのワールドカップの写真、それから車椅子バスケットボールの世界選手権の写真、そういうふうに多様なところで「君が代」を歌われているんだということを学ぶということでも、さざれ石の写真よりも、より子どもたちには学んでほしいなというふうに感じたところでございます。それが大きいです。以上です。

○教育長（山下秀男）　ほかございますか。

○委員（紅林由紀子）　私も教育芸術社のほうがいいと思ったんですけれども、氏井委員と同じようなところに加えて少し気づいたところといたしまして、ポピュラー音楽のジャンルの解説が教育芸術社には入っておりまして、これがやはり中学生には興味を持って見てもらえるんじゃないかというところがございます。

あともう1点は、音楽、今日の音楽の意味や役割を考えさせる情報が充実していると感じました。例えば、音楽体験を招くアウトリーチとか、音楽教育とSDGsと題して難民キャンプでそういった教育支援をしている人の活動を紹介したりというような部分でも今日的にいいのではないかなというふうに感じました。以上です。

○教育長（山下秀男）　ほかにございますか。よろしいですか。

それでは音楽（一般）の教科用図書につきまして無記名投票により決定いたしたいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男）　それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦）　音楽一般を報告させていただきます。

教育出版0、教育芸術社5、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。音楽（一般）につきまして、株式会社教育芸術社が多数のため同社を採択いたします。

続きまして、音楽（器楽・合奏）の教科用図書について審議、採択を願います。御意見のある委員の方お願いいたします。

○委員（氏井初枝） 私は、教育芸術社のほうがよりいいなということを感じました。理由は、器楽では中学生はアルトリコーダーを中心に学習するという話を伺いましたが、アルトリコーダーの指づかいの写真が多く載っているということ、それからアルトリコーダーのことだけではなくて違うページには和楽器のお琴の指づかいが載っていたり、それから何ページにもわたりまして打楽器のいろいろな演奏をしているところの、演奏の間近なところの様子などがすごく写真を使ってわかりやすく載っているところがいいなということを感じました。それが一番の決め手でございます。

あと、つけ足しです。先ほど表紙をめくった写真の話をさせていただきましたけれども、ちなみに教育芸術の器楽のほうは、そういった教材がすごく注目されているピアニストで子どもたちが知っているかどうかかわからないんですけれども、そういうピアニストのことにも触れてもらいたいなということも感じました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（白川宗昭） 先ほど音楽（一般）のほうで教育芸術社になったわけなんですけれども、私は冒頭にもちょっと申し上げましたけれども同じ会社のほうが、つくり方が似ているというか、子どもたちも戸惑わないで済むんじゃないか、目次の立て方とか内容に着いての説明とかいうふうに思いました。そういう意味で一緒の教育芸術社でいいんじゃないかという意見でございます。

○教育長（山下秀男） ほかはよろしいですか。それでは音楽（器楽・合奏）の教科用図書につきまして無記名投票により決定いたします。記入をお願いいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 音楽（器楽・合奏）を報告いたします。

教育出版0、教育芸術社5、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。音楽（器楽・合奏）につきましては、株式会社教育芸術社が多数のため同社を採択いたします。

続きまして、技術の教科用図書につきまして審議、採択を行います。御意見を願います。

○委員（氏井初枝） 私ごとでございますが、美術館に行くのは趣味の一つです。文教出版は表紙にこういう有名な絵がのっていたり、それから中を開きますと有名なかきつばたの屏風の、あれが載っていて、そしてそれも折り曲げて立体的にして見られるようになったりして、すごくよく工夫されているな、文教がいいかなと思ったんですが、よくよく考えたり調査結果の報告書を見せていただいたところで気持ちが変わりました。気持ちが変わった一番の理由というのは、中学生の作品をたくさん扱っているということ、それから鑑賞と表現がバランスよく教科書に配列されているというところが、やっぱり中学生だからそういうような鑑賞がすごくできる環境、美術館に行ってみるのは大人になってからいくらでもできるので、そちらは大人のほうに譲って、中学生の時に同じ年代のほかの学校のお子さんの作品とか、そういうのもたくさん味わって美術を学んでもらいたいなということを感じました。なので、私は気持ちが変わった結果、光村のほうがいいなというふうに感じています。

○委員（白川宗昭） 私は、今の正反対でございまして、日本文教、そちらがいいかなというふうに思います。先ほど書写の所でも申し上げたんですけれども、中学から高校に入ってくると選択になってくるわけです。見たり聞いたりするのは中学で一旦切れてしまう、好きな人は当然大人になってからも見に行くというようなことはあるかと思えますけれども、やっぱり私は鑑賞ということも、大きいジャンルじゃないかなというふうには思っています。鑑賞に適しているのは、やっぱり日文のほうなんじゃないかなと思います。

それから、もう一つは、躍動感があるというか、全体にきれいさというのが、確かに光村のほうが、逆にいうと大人しい感じがするんですね。もう少し芸術は爆発だといった人がいますけど、そういう躍動感、そういうものがあっていいんじゃないかなというのは、的外れかもしれませんがそんなふうに思って、子どもたちが、どういうふうにとっついてくれるか、私は躍動感があるほうがいいかなというふうに思った次第でございます。優劣つけがたいです。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 私も本当に優劣つけがたいというふうに感じました。でもその中で先ほど調査研究部会、中屋副校長先生が、生徒の視点を大事にして生徒のどんな思いでその作品をつくったかということを大切にされているという意味で、やはり光村のほうがいいのかなというふうに感じました。生徒作品の中で、風景なら風景をどういう視点から切り取って、それをどういうふうにデッサンして、そして色をつけていったというステップが光村は載っているところがありまして、そういう所も見て、こういうふうやっていったんだなということが生徒自身が見られるという意味でも、両方いいんですけれども光村のほうがいいかなというふうに思いました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。

それでは、美術の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。
御記入をお願いいたします。

(投票用紙回収)

○教育長（山下秀男） それでは、投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 美術、報告いたします。
開隆堂0、光村図書4、日本文教1、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。
美術につきましては、光村図書出版株式会社が多数のため同社を採択いたします。
続きまして、保健体育の教科用図書について審議、採択を行います。御意見のある方はお願いいたします。

○委員（紅林由紀子） 保健体育については、大きな特徴だというふうに感じたのは、やはりさまざまな多様性を認め合うというようなことが取り上げられているなというふうに思いました。そして、そういうものをやはりちゃんと意識しているものがあるというふうに感じています。今の中学生を取り巻くいろいろな心と体の健康を守るために、中学生が読んで安心したり気をつけようと思ったりという内容がきちんと押さえられているものということで、その点から私は学研と大修館が充実しているというふうに感じました。

大修館は、感染症のページも充実していて、マスクは何のためにつけるのかなど、マスクの穴の大きさとウイルスの大きさと花粉の大きさを図で比べたりなど、今に通ずるような情報も載っています。また、心身の健康、性のことなど、生徒が感じやすい不安や疑問に答えるQ&Aの健康相談コーナーというのもコラムでありまして、そういうものも役立つというふうに感じました。

学研のほうは、やはりレイアウトに統一性があるというところが大きな特徴だというふうに思いました。その時間の目標がタイトルの横に提示されて、中学生の生活やこれまでの体験に照らし合わせて投げかける形で課題をつかんで、そこからまとめる、深めるという流れですべて構成されていて、見通しを持って学びやすいというふうに感じました。そしてまた発展的なというか、コラムとか欄外の「情報サプリー」というようなところで、大変情報が豊富で、例えばデートDVのこととか、月経の個人差とか、パワハラは人権侵害であることとか、自画撮り被害のこととか、今の中学生にぜひ知っておいてもらいたいというような情報がかなり網羅されているというふうに思いました。また、「探究しようよ」という発展的なページでは、脳死と臓器移植とか、特定の相手との交際とか、がん患者とともに生きるとか、本当に幅広い現代のテーマが挙げられているのもいいというふうに思います。感染症については、新たな感染症が広がりを見せた場合などには、患者やその家族への偏見や差別など人権上の問題が起こることがありますというような、まさに今のコロナ禍での問題に通じるような記述もあり、そういう所もいいというふうに思います。あと、今、LGBTとかそういう性の多様性につ

いて配慮がかなり進んで来つつありますけれども、性とどう向き合うかという項目では、異性というような記述ではなく男女とかそういう記述ではなくて、「相手と」というような言葉を使っていて、その辺も配慮されているのがとてもいいのではないかというふうに思いました。

1点だけ、最近の中高生に見られる、朝起きられない病気として起立性調整障害というのがあるんですけれども、この生活の乱れという意味では、どの教科書も載っていたんですけれども、病気としての記述はどの教科書にも載ってなくてこれからなんだと思うんですけれども、そういう所はぜひ中学生に知っておいてもらいたい情報だなというふうに思いました。以上です。

○教育長（山下秀男） 貴重な意見ありがとうございました。

ほかにございますか。よろしいですか。それでは保健体育の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 保健体育を報告いたします。東京書籍0、大日本図書0、大修館0、学研教育みらい5、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。保健体育につきましては株式会社学研教育みらいが多数のため同社を採択いたします。

続きまして、技術・家庭（技術分野）の教科用図書について審議、採択を行います。御意見ををお願いいたします。

○委員（紅林由紀子） 私は東京書籍がいいというふうに思いました。一番最初のガイドンスのページに、先ほど部会の先生からお話がありましたけれども、技術の見方考え方として、技術の最適化の4つの要素が出ているわけなんですけれども、その窓を覗くようなそういう見せ方というところもとてもわかりやすくていいなと興味を引かれていいなというふうに思いましたし、美術の最適化とは何だろうというような漫画が続けてあって、とても理解しやすくする工夫を感じました。

また東京書籍はとてもデジタルコンテンツが充実していて、道具の使い方とかそういうのももちろんそうですけれども、情報技術とかそういう所についてもそういう映像でわかりやすくしているという点でもいいのではないかと思います。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。

それでは技術・家庭（技術分野）の教科用図書につきまして無記名投票により決定いたします。記入をお願いいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 技術・家庭（技術分野）です。
東京書籍 5、教育図書 0、開隆堂 0、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。
技術・家庭（技術分野）につきましては、東京書籍株式会社が多数のため同社を採択いたします。
続きまして、技術・家庭（家庭分野）の教科用図書について審議、採択を行います。
御意見をお願いいたします。

○委員（白川宗昭） 私はここは先ほど申し上げた SDGs、持続可能な社会ということですが、開隆堂と東京書籍は非常に細かく載っているというふうに思いました。持続可能な社会、持続可能な食事、持続可能な衣生活というんですか、というふうに分けまして、非常に細かく食品ロスだとか非常に身近な問題からきちんと捉えているということで、この 2 社がいいと思いますけど、開隆堂のほうがより充実しているかなという印象でございました。大差はございませんけれどもそんなような。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（氏井初枝） 私は開隆堂がいいなというふうに感じております。いくつか理由がございますけれども、高齢化社会になって、高齢者についての学習が詳しく記載されていて、アクティブラーニングが展開されるような内容になっているということ。それから動画のことなんですけれども、左利きのお子さんというのは以前に比べて今クラスに多くなっているという現状があると思うんですけれども、なかなか指導者が左利きでない場合には師範が難しいと思うんですね。それが開隆堂のほうでは、動画により左利きの作業のことなどが見られるようになっていることがいいなということを感じました。QR コードのコンテンツもすごく充実しているなということを感じております。以上でございます。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 私も開隆堂がいいと思うんですけれども、理由としまして 1 点だけ付け加えさせていただきますと、多様性についてよく配慮されているというふうに感じました。中学生にとっての家族というところで、家族関係の変化というところがあるんですけれども、そこの中に「家族のあり方、暮らし方はさまざまです」というふうに記述されて、養子縁組制度とか里親制度とかそういう所も紹介されて、家族の形というのがさまざまあるんだということを押さえてあるところは、大変好ましいというふうに思いました。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。よろしいですか。
それでは、技術・家庭（家庭分野）の教科用図書につきまして無記名投票によ

り決定したいと思います。記入をお願いします。

(投票用紙回収)

○教育長（山下秀男） では投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 技術・家庭（家庭分野）の報告をいたします。

東京書籍0、教育図書0、開隆堂5、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

技術・家庭（家庭分野）につきましては開隆堂出版株式会社が多数のため同社を採択いたします。

続きまして、英語の教科用図書につきまして審議、採択を行います。御意見のある委員はお願いします。

○委員（氏井初枝） 小学校で英語が教科になったということを受けまして、中学校の英語はすごく難しくなる、そのことによって英語嫌いが増えるのではないだろうかというご心配の声が市民の方の中からも出ておりましたけれども、割と会話から聞いたり話したりというところから入るというのは、どの教科書も多くなっていて、その分がちょっと難しくなっているというところがある今言ったようなことの一つの教科書でのことなのかなというふうに思いますけれども、そういう中で言いますと、三省堂のは4技能と5領域のバランスがよく学ぶことができるという点、それから基本文が見やすく要点が把握できるように配慮されているというところが他社よりいいかなということを感じました。以上でございます。

○教育長（山下秀男） 白川委員。

○委員（白川宗昭） 私も同じような意見でございますけれども、5領域4技能、聞く、読む、話す、書くその4つをうまく連動してできているということで、三省堂がいいと思います。それから三省堂は、文法の基礎というものにもこういう中でしっかりと押さえているというふうに読めますので、それも大事なことで、話すことが大事だとも言われていますけれども、文法だってやっぱり私は大事なんじゃないかと思いますので、その点を考えて三省堂がいいというふうに思います。

○教育長（山下秀男） ほかにございますか。

○委員（紅林由紀子） 私も三省堂もいいというふうに思いました。毎時の授業を見通しを持って学んでいけるために、今の4技能5領域という活動が、ユニットの中でパターン化して、毎回ユニットはこういうように流れているんだというようなパターンがあったほうが、多分、子どもたちは学んでいきやすいという意味で、私は三省堂と、あと光村がいいというふうに思いました。文法のお話が今ありましたが、文法の習得という面でもその2社がいいと思いました。先ほど質問させていただきましたけれども、文法が少しタイトになってきて学ぶのが大変になるん

じゃないかという中で、三省堂は現在完了を中２で学ばせて、現在完了進行形を中３の初めでというふうな、そういう工夫がされていたところはとてもいいと思いました。

あとまた三省堂は、１年の最初に小学校英語でよく出てくる be 動詞と一般動詞を同時に同じユニットの中で最初に教えて、その違いを同時に教えることによって違いを意識させて、理解を深めるという手法を取っているのがとてもいいと思いました。そしてその次に、やはり小学校でよく出てきたタームを教えています。そういった意味で、光村は、１年の最初に小学校でよく出てくる be 動詞、一般動詞、can を肯定文という形で一遍に同じユニットで扱っています。そこから次の単元で疑問形と否定形を教えているというのも構造が比較できて、大変理解するのに適しているのではないかなというふうに思いました。

そういう意味で、２社のうちのどれかだったら私はいいいんじゃないかなと思いますけれども、個人的に自分が学ぶとしたら光村がいいかなと思います。その理由としましては、これは設定が３年間の中学生生活の４人の仲間のお話がドラマ仕立てになって進んでいくという特徴がありまして、興味を持って読み進んでいく工夫があります。そして、最初にリスニングで、そのユニット全体のおおよその状況をつかませて、それからデジタルコンテンツでそれが動画というか漫画のような形でそこを確認できる、そこから中に入っていくという構成が、ちょっと特徴的なんですけれどもそれが自分でも学んで行きやすいなというふうに感じました。

２社とも現代的な問題は十分取り扱っているので２社のどちらでもいいんですけれども、自分だったら光村というふうに考えております。

○教育長（山下秀男） よろしいでしょうか。

それでは英語の教科用図書につきまして無記名投票により決定したいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男） それでは投票結果の発表をお願いいたします。

○指導課長（吉成嘉彦） 外国語英語の報告をいたします。

東京書籍０、開隆堂０、三省堂４、教育出版０、光村図書１、啓林館０、以上です。

○教育長（山下秀男） ただいま結果の発表がありました。

英語につきましては、株式会社三省堂が多数のため同社を採択いたします。

続きまして、道徳の教科用図書について審議、採択を行います。

御意見のある委員はお願いいたします。

○委員（紅林由紀子） 道徳の教科書は、前回の採択からそれほど時間が経っていないように思うんですけれども、教材的にはそれほど大きく変わっていないように感じました。その中でいじめをテーマにした教材としましては、教育出版が「いじめ

と立ち向かう君へ」と2週連続して扱えるように工夫していて、内容的には生徒が自分のこととして考えられるようなものも多くていいなと思いました。あと日文も、「いじめと向き合う」を大きなテーマとして、怒りの感情の沈め方とか、ほかにもいろいろな教材がそろっていると感じました。ただ、振り返りの仕方が教育出版は振り返りシートというのを学期末に出す形になっていまして、その書きやすさ、それからこの授業、道徳の授業はどうでしたかというような授業アンケート的な質問があるのもとてもよいと思ひまして、先生や生徒の負担を考えるとそのぐらいのサイズのものがないのではないかというふうに感じています。以上です。

○教育長（山下秀男）　ほかにございますか。

○委員（氏井初枝）　道徳に関しましては、前回市民の方から色々御意見をいただいた所なんですけれども、そんなこともありまして、私はそういう所を特に全部の会社比べさせていただきました。今、紅林委員からお話がありましたように、私も子どもにとっても指導者にとっても負担にならないものがないなというふうに考えております。

私は、教育出版がいいなと思っているんですけれども、一つつけ足しをさせていただきたいと思ひます。それは教育出版の教材のことなんですけれどもタイトルの下に投げかけの言葉が載っているんですね。どの教材にも。そういうのが学ぶ際のポイントが集約されているというか、そのことについて学ぶんだという見通しもできますし、とてもいいつくりになっているなということを感じました。以上でございます。

○教育長（山下秀男）　ほかにございますか。

○委員（白川宗昭）　私も大体、先生方の意見と同じでございます。自己評価的なものを書かせるところもありますし、振り返りシートで毎回書くような形になっているところもあります。それから書く学期単位で書かせるところもあるという3つのパターンがあるかと思ひますけれども、私も簡単なほうがいいんじゃないかなと思ひますし、子どもたちが本当に書くのかなと思ひるところもありまして、簡単に書くよりもっと考えさせることのほうが大事なのかなというふうに思ひまして、一番簡単でありそうな教育出版がいいんじゃないかなと思ひた次第です。

○教育長（山下秀男）　ほかよろしいですかね。それでは道徳の教科用図書につきまして、無記名投票により決定したいと思います。記入をお願いいたします。

（投票用紙回収）

○教育長（山下秀男）　それでは投票結果の発表をいたします。

○指導課長（吉成嘉彦）　道徳の報告をさせていただきます。

東京書籍0、教育出版5、光村図書0、日本文教0、学研教育みらい0、廣済

堂あかつき 0、日本教科書 0、以上でございます。

○教育長（山下秀男） ただいま投票結果の発表がありました。

道徳につきましては、教育出版株式会社が多数のため同社を採択いたします。

これをもちまして中学校の教科用図書の採択につきましてすべての種目の採択が終了しましたので、改めて採択結果を事務局から報告願います。

○指導課長（吉成嘉彦） 着座のまま失礼いたします。

国語「国語」光村図書出版株式会社

書写「中学書写」光村図書出版株式会社

社会【地理分野】「社会科中学生の地理」株式会社帝国書院

社会【歴史分野】「新しい社会歴史」東京書籍株式会社

社会【公民分野】「新しい社会公民」東京書籍株式会社

地図「中学校社会科地図」株式会社帝国書院

数学「新しい数学」東京書籍株式会社

理科「理科の世界」大日本図書株式会社

音楽【一般】「中学生の音楽」株式会社教育芸術社

音楽【器楽】「中学生の器楽」株式会社教育芸術社

美術「美術」光村図書出版株式会社

保健体育「中学保健体育」株式会社学研教育みらい

技術・家庭【技術分野】「新しい技術・家庭 技術分野」東京書籍株式会社

技術・家庭【家庭分野】「技術・家庭 家庭分野」開隆堂出版株式会社

外国語英語「NEW CROWN」株式会社三省堂

特別教科道徳「中学道徳」教育出版株式会社

以上でございます。

○教育長（山下秀男） ありがとうございます。令和 3 年度に昭島市立中学校で使用する教科用図書につきましては、ただいま事務局の報告のとおり採択をいたします。

次に、特別支援学級で使用する教科用図書の採択を行います。

特別支援学級設置校の各校長、副校長から御説明がありましたように、令和 3 年度に小中学校の特別支援学級で使用する教科用図書は、一覧表に載っているものを採択するということで御異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（山下秀男） 御異議なしと認め、令和 3 年度に小中学校の特別支援学級で使用する教科用図書については、この議案の参考資料 2 に示されています教科用図書を採択することといたします。

以上で、議案第 19 号の審議を終了します。

本日、予定をいたしました議事につきましては以上となります。

次に日程 6、次回の教育委員会定例会の日程について事務局から説明をお願いします。

○庶務課長（加藤保之） 令和2年第9回定例会は、令和2年9月4日金曜日、午後2時30分から市役所庁議室において開催いたします。

○教育長（山下秀男） 次回の定例会につきましては、9月4日金曜日、午後2時から市役所庁議室において開催いたしますのでよろしくお願いいたします。

本日は長時間にわたりまして教科書の採択ということで、委員の皆様、大変お疲れ様でした。また傍聴の皆様も長時間おつき合いいただきまして大変ありがとうございました。教科書の採択は、このメンバーで3日ほど研究会をやったわけですが、それ以外にもいろいろな時間を捻出していただいて、各委員の皆さんについては、本当に細かく教科書を読んでみていただきまして今日の採択に繋がったものと思います。改めまして委員の皆様の取組みに心から感謝を申し上げる次第でございます。

それでは、本日の日程はすべて終了いたしましたので、これをもちまして昭島市教育委員会定例会第8回を終了させていただきます。本当にお疲れ様でございました。ありがとうございました。

以上

年 月 日

署 名 委 員

2 番 委 員

3 番 委 員

調 整 担 当